

令和6年度
邑南町教育委員会の権限に属する
事務の点検・評価報告書



令和7年8月
邑南町教育委員会

目 次

はじめに.....	1
1 教育委員会の開催実績.....	1
2 教育委員の諸活動.....	3
3 教育委員の研修など.....	3
4 教育委員会だより.....	3
5 教育委員会所見.....	3
6 第三者評価機関委員からの意見骨子.....	6
7 令和6年度邑南町教育委員会点検・評価表（点検・評価 1～44）.....	10

資料 教育委員会点検・評価に係る自己評価の考え方

令和6年度教育委員会点検・評価と公表についての自己評価について

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条により、教育委員会は、事務の管理及び執行について点検・評価を行い、その結果の報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されています。邑南町教育委員会では、効果的な教育行政の推進と町民への説明責任を果たすために、邑南町教育施策の実施計画をもとに、自己点検及び評価を行い、第3者評価機関委員の意見をふまえて議会へ報告します。

1 教育委員会の開催実績

定例（毎月開催）の教育委員会・・・12回

臨時の教育委員会・・・1回

*詳しくは以下のとおりです。

開催日	主要議題（報告事項、予算関連事項、その他の事項除く）
4月26日	1. 指定学校変更について 2. 令和6年度邑南町立小中学校主任等発令意見具申について 3. 邑南町社会教育委員の委嘱について 4. 令和6年度学校支援地域コーディネーターの委嘱について 5. 令和6年度井原公民館再整備検討委員会の委嘱について 6. 邑南町教育支援委員会の委嘱について 7. 邑南町食育推進委員の委嘱について 8. 財産の取得について
5月22日	1. 自然体験活動安全管理マニュアルの作成について 2. 工事請負契約の締結について（石見中学校既存校舎等解体） 3. 邑南町結核対策委員会の委嘱について 4. 邑南町社会教育委員の委嘱について 5. 邑南町郷土館活動推進協議会の委嘱について
6月28日	1. 教育支援委員会への諮問について 2. 要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定について 3. 瑞穂ハンザケ自然館条例施行規則の一部改正について 4. 瑞穂ハンザケ自然館館長の任命について
7月30日	1. 邑南町立学校施設設備の開放に関する規則の一部改正について 2. 教科書採択について 3. 一般図書採択について 4. 邑南町教育委員会の点検・評価及び公表に係る第3者評価機関の委員の委嘱について 5. 令和6年度 邑南町教育施策の実施計画について 6. 令和5年度 邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検・評価について
8月21日	1. 教育支援委員会の答申について 2. 令和6年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定について 3. 令和5年度 邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検・評価について 4. 工事請負契約の締結について（石見中学校校庭外構整備）

開催日	主要議題（報告事項、予算関連事項、その他の事項除く）
	5. 邑南町立学校給食共同調理場条例の一部改正について
9月30日	1. 邑南町教育支援センターの他市町児童・生徒の受け入れについて 2. 教育支援委員会への諮問について 3. 邑南町子ども読書活動推進委員の委嘱について 4. 久喜銀山遺跡保存活用計画の策定について
10月29日	1. 要保護準要保護児童生徒就学援助の追加認定について 2. 指定学校変更について 3. 教育支援委員会の答申について 4. 財産の取得について（給食車） 5. 久喜銀山遺跡保存活用計画について（答申） 6. 区域外就学について
11月22日	1. 指定学校変更について 2. コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について 3. 区域外就学について
12月24日	1. 区域外就学について 2. 区域外就学について 3. 区域外就学の終了について 4. 指定学校変更について
1月23日	1. 指定学校変更について 2. 区域外就学について 3. 教育支援委員会への諮問について 4. 邑南町教育支援センターの他市町児童・生徒の受け入れについて
2月5日	1. 教職員の人事異動内申について
2月17日	1. 教育支援委員会の答申について 2. 邑南町外国語指導助手任用規則の一部改正について 3. 財産の取得（町内中学校 教師用指導書及び指導者用教科書購入）について 4. 邑南町国際交流員任用規則の一部改正について 5. 邑南町学校事務共同実施連絡協議会設置要綱の一部改正について 6. 邑南町小中学校の在り方検討委員会設置条例について 7. 第4次「邑南町子ども読書活動推進計画」策定について
3月25日	1. 区域外就学について 2. 邑南町スポーツによるまちづくり方針策定委員会設置要綱について 3. 邑南町スポーツによるまちづくり方針策定委員の委嘱について 4. 邑南町中学校部活動地域連携指導員配置事業実施要綱の制定について 5. 邑南町スポーツ推進委員の委嘱について 6. 邑南町立図書館長の任命について 7. 邑南町指定文化財の申請について 8. 邑南町郷土館館長の任命について 9. 邑南町文化財保護審議会委員の委嘱について 10. 久喜銀山遺跡保存活用委員会委員の委嘱について 11. 邑南町公民館長の任命について 12. 邑南町公民館運営審議会委員の委嘱について 13. 学校支援地域コーディネーターの委嘱について 14. 邑南町社会教育委員の委嘱について 15. 邑南町教育委員会事務局組織規則の一部改正について

2 教育委員の諸活動

- ① 学校行事への出席（入学式、卒業式など）
- ② 町、教育委員会行事への出席（はたちを祝う式典など）
- ③ その他の活動（学校訪問、総合教育会議など）

*詳しくは以下のとおり

開催日	内 容
4月2日	教職員着任式
4月9日	小中学校入学式
7月8日	学校訪問（日貫小、市木小、口羽小、阿須那小）
7月10日	学校訪問（瑞穂中、瑞穂小、羽須美中）
7月18日	学校訪問（石見中、石見東小、高原小、矢上小）
1月3日	はたちを祝う式典
3月8日	中学校卒業式
3月18日	小学校卒業式（瑞穂小、石見東小、矢上小）
3月19日	小学校卒業式（口羽小、阿須那小、高原小、市木小、日貫小）
3月25日	教職員退任式

3 教育委員の研修など

開催日	研 修 内 容
1月23日	総合教育会議 テーマ「ふるさと教育について」

4 教育委員会だより

令和6年度は、教育委員会だより「邑南の教育」を年3回発刊しました。

内容は、教育委員会の会議などの活動状況に加え、各学校の紹介、社会教育関係行事などの紹介をしました。

5 教育委員会所見

地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政の責任体制が明確化された、新たな教育委員会制度が、平成27年4月1日から施行され、邑南町教育委員会では平成28年から新制度に移行しています。

毎年度「教育施策の実施計画」を定め、具体的な事業内容については教育委員会だより「邑南の教育」を通じて、町民の皆様方へお知らせしてきました。教育委員は、「教育の魅力化」の推進のため学校訪問により各校の抱える課題の把握に努めました。「ふるさと教育について」をテーマにした総合教育会議を実施しました。

令和6年度 of 主な事業を次に示します。

(1) 教師力向上対策事業・学力向上対策事業の取り組み

【教師力向上対策事業】

①学び合い訪問指導（計11回）

主体的・対話的で深い学びの実現の為に必要な授業づくりの手法を研究するための事業

講師：山下政俊氏（邑南町学び合い専任講師）

②情報活用教育講座

図書資料などから必要な情報を引き出したり、まとめたり、表現したりする力を子どもたちにつける手法を学ぶ事業

講師：塩谷京子氏（放送大学客員准教授）

③多様性教育ガイドセミナー

自分との関わりを大切に、差別を読み解く確かな力、差別に立ち向かう力を伸ばすための手法を学ぶ事業

講師：土田光子氏（大阪多様性教育ネットワーク 共同代表）

森実氏（大阪多様性教育ネットワーク 共同代表）

【学力向上対策事業】

①辞書引き学習会の実施

小学校1年生から辞書引き学習に取り組み、子どもの読解力を高めたり、調べたりする力を育てるための事業

講師：深谷圭助氏（中部大学教授）

②リーディングスキルテストの実施

中学校3年生を対象にWebにてリーディングスキルテスト（読解力テスト）を実施し、その結果を分析し、各校の学力向上に役立てる事業

③花まる算数教室の実施

全小学生の希望参加で、年間6回（羽須美地域、瑞穂地域、石見地域 同時開催）算数の基礎的・基本的な問題や発展的な問題を解くことで、基礎的な学力育成を図るとともに、算数の対する意欲向上を高める事業

講師：地域ボランティア、地元高校生

④調べる学習作品展の実施

町内の小中学校から調べ学習の作品を募集、展示、評価する機会をつくることで、図書館活用教育など、探究的な学習の充実を図る事業

9月27日（金）～10月20日（日）に実施

(2) 学校の魅力化

①地域とともにある学校づくり

地域の子供達にどのように育ってほしいのか、どんな力を付けてほしいのかという目標やビジョンを共有し、地域・学校・家庭とが一緒になって取り組み

ました。

- 羽須美地域：育てたい子ども像を、「自分に自信をもち、人とつながることができる子ども」、「ふるさとを愛する子ども」を掲げ、地域との共有を始めた。
- 瑞穂地域：育てたい子ども像に必要な要素を盛り込んだ人間力マップ「SISUマップ」を完成させ、活用方法の検討を始めた。
- 石見地域：様々な活動にあたり、育てたい子ども像を8つキーワードと合い言葉「いわみ力」を意識して取り組んだ。

② 邑南町小規模特別認定校制度による取組

自然環境を生かすなど、特色ある教育を推進している小学校に一定の条件を付して通学区域外からの就学を認めることにより、児童の心身の健康増進と豊かな人間性を培うこと、また学校の活性化を図ることを目的とした小規模特別認定校制度を令和元年度に創設し、日貫小学校を指定校としております。

(小規模特別認定校への就学の条件)

- ア. 邑南町に居住していること
- イ. 小規模特認校の教育活動に賛同し、協力すること
- ウ. 保護者などの責任と負担において、児童が安全に通学できること
- エ. 原則として1年間以上、最長で卒業するまで就学できること

(3) 学校施設整備事業の実施

町内中学校校舎3校のトイレは瑞穂中、羽須美中が洋式化済で6年度2学期から石見中の新校舎が供用開始となったことで洋式化が完了しました。

小学校校舎は8校中3校が整備済で、6年度は口羽小トイレの床乾式化及び洋式化工事を実施しました。

学校施設照明のLED化工事は令和4年度から実施しており、6年度は口羽小ほか8校の計19室で実施しました。また、地域脱炭素移行・省エネ推進交付金を活用し、高原小体育館及び羽須美中テニスコートの照明についてLED化工事を実施しました。

次年度以降も計画的に実施していくこととしています。

(4) 石見中学校改築事業

令和2年度に基本構想基本計画を策定、令和3年度に基本設計と実施設計を完了、令和6年5月に改築工事、令和7年2月に既存校舎の解体工事を完了しました。

現在は校庭や外構工事に着手しており令和7年7月末の完成により、学校全体の整備事業完了とする予定としています。

(5) 公民館のあり方

令和5年度に発生した公民館事業における事故を受けて、安全管理マニュアルを整備し、それを踏まえた公民館職員向けの研修会や普通救急救命講習等の各種研修を受講しました。二度と事故を発生させないよう、安心・安全を徹底し、今一度地域住民が集い、学びの場としての公民館を目指し、屋外事業の再開をし

て参りました。

今年度も社会教育の幅広さや楽しさを知ってもらうための場として「WE フェス」を開催しました。今回は、子ども達の学校以外での活動披露の場ということも意識し、子ども達の活動発表や展示を行いました。活動発表では、子ども達がプレゼンやパネルディスカッションにて、台本やメモではなく、自分の言葉で発表や発言を行っていたのが印象的でした。子ども達自身の成長もありますが、活動に関わる大人達の関わり方も良かったと感じました。「学びのサイクル」による人づくり促進事業の補助を受け、公民館と地域組織等が協働で活動を行うことで、人材育成や関わる人材の増加などを意識して取り組み、自発的・継続的に取り組む人づくりに努めました。

(6) 共生社会の実現関連事業について

障がい理解と障がい者理解を最大の目的としたフィンランド共和国との国際交流については、理解を深めていただくための取り組みを実施しました。

邑南町共生社会推進アドバイザーによる「一步踏み出す勇気～自分が変われば世界が変わる～」講演会を邑南町 PTA 連合会と共催して実施しました。

フィンランド共和国交流事業については、エスポー高校の生徒・教員が邑南町をホームステイ訪問し、地域住民及び町内学校の児童生徒と交流しました。お互い深い絆を結ぶ国際理解ならびに両国の文化を学び合うことができました。

(7) 史跡久喜銀山遺跡の保存活用に向けた取り組み

令和3年10月に国史跡に指定された久喜銀山遺跡の保存活用について、令和4年度から2か年かけて国庫補助事業にて保存活用計画策定を行い、計画の認定について令和6年12月に国に申請し、令和7年3月に認定を受けました。

計画策定の目的は、久喜銀山遺跡を将来にわたって確実に保存し、歴史文化を生かしたまちづくりへの展開も目指しつつ、有効かつ適切に活用していくための基本計画の策定としています。このため本計画は、史跡の本質的価値や構成要素などを明確にした上で、それらを保存・活用していくための基本方針、方法、現状変更などの取扱い基準などを明らかにするものです。

また、地元で史跡保存や活用に尽力いただいている久喜・大林銀山保全委員会や久喜銀山ガイドの会、一般社団法人コミュニティパートナーズなどの団体と協働して、草刈、除草、倒木処理などの史跡環境整備や、ガイド研修や案内用冊子印刷等を行い、観光・学習の案内窓口の充実を図りました。

6 第三者評価機関委員からの意見骨子

1. 生きる力を育む教育の推進（学校教育）

施策1 「安心・安全・信頼の学校・学級づくり」

①人権・同和教育の推進（点検・評価1）

○令和7年度実施のいじめフォーラムに参加して実際に体験・経験された校長先生が学校の体制を変えた話、保護者の思いを聞くことができた。こういった研修の内容については町内小中学校で共有できているのか。実例を含めて是非共有してほしいという感想を持った。

③確かな学力を育む（点検・評価2）

- 子ども笑顔キラキラサポート事業について、生活支援員、学習支援員が配置されることによって児童・生徒が救われている、支えられていると聞いている。いじめについても最初の対応が重要で、支援員はそれに対応できる存在としても重要である。1人ひとりに必要なサポートは今後も増えていく気がするため、支援員の貢献は大きいと思う。
- 学力調査の「実績評価」を9としているが、「実施状況」が「やや下回る」「やや低い」の記載の中、評価が9なのが理解しにくい。評価の際には、全国、県、町平均の記載があると判断しやすいので町の平均点を記載してほしい。
- ALT 3名、外国語指導員、国際交流員が配置され、英語教育の環境が整っている。英語の楽しさに触れるよう学校だけでなく地域で活動されている人との連携を考え、地域の力を学校に活用していただければと思う。

④特別支援教育体制の構築（点検・評価6）

- 「相談支援ファイルすこやか」が必要な子どもにわたり、幼少期から就職までの切れ目のない支援が大事だと思う。保護者にとってもありがたいもので、保護者の思い、子どもたちの実際の姿が幼少期から繋げて伝えられ連携をとって密度の濃いものにしてほしい。さらに切れ目のない対応をお願いしたい。
- 教育委員会や子どもまるごと相談室、教育支援センターなどが連携してケース会議を開催し、不登校や支援が必要な子どものサポートをしている。1人ひとりの子どもを大切にしていると感じる。
- 島根県は不登校が増えているが、早く専門機関に繋げてケアしているから期間が短い特徴があると聞いた。本人だけでなく、家庭への支援も大切なため、併せてサポートを続けていってほしい。
- いじめ対応支援事業の「実績評価」が10だが、会議を実施したから10なのか、「いじめの重大事態」の事案はその後解決したのか示してほしい。
- 毎年「重大事態の事案について」の事業実施しているが、毎年別の事案が発生しているのか、同じ事案の継続実施なのかわからない。この記載だと毎年重大事態が発生していると誤解してしまうので、わかりやすく記載してほしい。
また、重大事態とは、学校・教育委員会のどの機関が認定するのか、重大事態の判断基準がわかるように示してほしい。
- 邑南町いじめ防止基本方針の具体的な改訂内容を知りたい。

施策2 小さな学校の大きな挑戦を支援

②地域との連携・協働（点検・評価10）

- 地域とともにある学校づくり（コミュニティ・スクール）について聞いたことがなく、地域では取り組みをしていない。「実績評価」は7でいいのか議論してほしい。自治会では人口減少の中、いかに事業を減らしていくか考えている中での地域住民を巻き込んだ新たな取り組みなので、地域住民が理

解するのも大変だと思う。教育委員会が取り組んでいくのであれば地域住民が理解・納得して取り組もうという機運が高まるように、取り組んで良かったと思えるように説明・情報提供してほしい。

- 中学校部活動の地域移行について、現状がわかりづらい。「実施目標」である策定委員会の立ち上げ、実証事業の実施について目標を達成したため「実績評価」を10と評価しているが、数字だけを見て不満が出るのではないか。

施策3 「安全・安心な教育環境づくり」への支援

②児童生徒の健康安全対策（点検・評価13）

- 青色パトロール隊の業務は何か、隊員は地域に認識されているのか。
- 青色パトロール隊の隊員の高齢化により活動の継続が難しいとあるが、定期的な募集・講習を行っているのか。

2. 地域を担う人材の育成（社会教育）

施策1 邑南町が推進する人材育成のステップ

①学校とともにある地域づくり（点検・評価16）

- 学校教育の施策では「地域とともにある学校づくり」、社会教育の施策では「学校とともにある地域づくり」を実施している。地域が知らないということがないようにしっかり対応してほしい。

②地域学校（点検・評価16）

- 各公民館の地域事業が停滞していると思う。教育委員会の見解を示してほしい。
- 阿須那公民館の軍原キャンプ場での川遊びなどの自然体験は、親子や地域の方とのふれあいがあり、和やかでいい体験が行われていた。
口羽公民館の通学合宿が5年ぶりに再開され、地域の人がお世話・支えていたのは良い活動だと思った。自分も協力したい。
- 現在の社会情勢等を鑑みた時に、公民館活動の在り方について再考する必要があるため、活動自体が慎重にならざるを得ないが、公民館それぞれ活動しているのはいいこと。
- ふるさと教育の一貫で自然体験を進めている。事故を教訓に、自然体験をするために公民館主事が現場でリスクの確認をしていた。事前準備をしっかりし、臆することなく、事業を進めていこうとしている姿勢を評価している。
- 事故の再発防止のため「自然体験活動安全管理マニュアル」が作成されている。マニュアルに準じて体験活動を実施するにあたっては、参加者の安心・安全を保つための努力が必要になる。
- 老人クラブや地域の方は学校の児童生徒と関わっていききたいという気持ちは強いが、学校側にも制約や要望があり、以前できていたことができにくくなっている。やってあげたいという気持ちが伝わらない現状を感じている。矢上高校の生徒は地域に入ってきているが、小中学校には入り込みにくい感じがする。日常の生活の中でふれあえる機会（楽に関われる機会）を自然に作っていけるような関係ができてくればいい。体制づくり、学校との関係を作してほしい。

○公民館を中心に子どもが望んでいること、地域が望んでいることを話し合える場も持ってほしい。具体的な取り組みができると思う。

⑤成人教育（点検・評価 19）

○「町民大学」は他講座との相乗り講座の感じがする。「大学」を銘打つのであれば他講座と差別化を図り、連続講座として学習の深化を図ってほしい。もしくは、講座のあり方（廃止を含めて）を再考する必要があるのではないか。

施策3 「学び」と「交流」で繋がる公民館事業

③多様な分野の学習の場の提供（点検・評価 25）

○平和教育の推進は、原爆に関することに特化している傾向がある。パネルを単に展示するだけではなく、展示を通して個々人の感性に訴える工夫が必要。戦争と平和全体を捉えた計画を公民館と連携し熟議してほしい。

○「歩こう広島まで」について今後どうしていくのか。

○「歩こう広島まで」は、原点に戻って継続して実施してほしい。

施策6 学び合いによる豊かな地域づくり

③健康センターの活用（点検・評価 37）

○元気館の各部屋の稼働率を示してほしい。田所公民館の会議室などは予約で埋まっている。元気館の会議室などを町民の会議にもっと利用してもらえばどうか。

施策7 学校と地域が連携（一体化）した取り組み

①食育の推進（点検・評価 38）

○地産地消の推進とあるが、給食の米は邑南町産か。金芽米は使用しているのか。米についてもこだわってほしい。

○子どもの育ちと食は関係している。町内産の食材だとしても、無農薬・自然体の食事を子どもたちにとってほしい。財源も大変だと思うが、子どもの食を大事に考えてほしい。

○「食の学校と公民館の活用」は、令和6年度からの新規事業で課題も多いと思うが、12公民館とどう連携をとって事業を展開しているのか不明。新規事業ではあるが、「食の学校」の立地条件などを勘案し、継続か廃止かを検討する必要があると思う。

3. 地域文化の創造

施策1 ふるさとの歴史・文化に関する学習の推進

①関係設備の整備・充実と有効活用（点検・評価 40）

○道の駅を活用して、近隣の郷土館、ハンザケ自然館、二ツ山などを詳しく説明できる体制が必要だと考える。また田所地域だけでなく、邑南町全体の情報発信の施策が必要と考える。特に郷土館については、国道に標識もなく、認知が低い。貴重な資料も多くあるので、整備・活用、さらに道の駅で情報があれば興味を持ってもらえると思うので情報発信に取り組んでほしい。

点検・評価表全体について

- 現在の実績評価（自己評価）の考え方は、
 - ・数値化可能な場合…目標達成度・主要成果を考慮して10段階評価
 - ・数値化できない場合…総合判断とし10段階評価この数値化できない場合の10段階評価は、「期待度」で判断しているが、評価者、評価内容、誰に対しての「期待どおり」かなど見方によって異なるため、評価が困難である。点数をつける判断が難しいので見直してもいいのではないか。
- 島根県の「点検・評価報告書」は、10段階評価ではなく、成果・課題・方向性で整理され報告されている。他自治体の報告書を参考に評価方法を検討してはどうか。
- 「総合点検・評価」と「主な事業内容と実施状況」に同じようなことが記載されており、評価したかわかりづらい。文章が多い。また「課題」が課題でなく説明・目標になっている事業がある。「課題」は箇条書きにするなど、すっきりと読みやすくしてはどうか。
- 実績評価の点数が「主な事業内容と実施状況」の記載だけでは評価が正しいのか判断するのが難しい。実施計画書を照らし合わせるのではなく、報告書だけでわかるように工夫が必要。

令和7年8月1日

邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検、評価に係る第3者評価機関

委員	高橋	智也
委員	新井	紀弘
委員	鍵本	亜紀
委員	鳥居	清枝
委員	平野	一成
委員	長谷川	淳
委員	森岡	弘典
委員	森光	美佐子
委員	三上	結城
委員	金山	峰子

7 令和6年度邑南町教育委員会点検・評価表（点検・評価 1～44）

別添のとおり。なお、各種事業の延期や中止については、実績評価の点数には影響させていません。

令和6年度邑南町教育委員会点検・評価表

【総合評価】

主な事業内容の実績評価をもとに総合的に判断する。実績評価の平均点で表示する。

【継続、廃止等】

「総合点検・評価」及び「課題」をもとに今後の方向性を示す。「継続」、「改善し継続」、「廃止」のいずれかを表示する。

【実績評価】

「主な事業内容と実施状況」欄にある事業内容ごとに実績に対する評価を行う。数値化可能なものは、目標達成度・主要成果を考慮して10段階で評価することとし、それ以外は、総合判断と同じく10段階で評価することとする。

1. 生きる力を育む教育の推進（学校教育）

施策1「安心・安全・信頼の学校・学級づくり」

～つながり合い、学び合い、高めあう教室・学校づくり～

事務事業名	①人権・同和教育の推進		
	総合点検・評価		
<ul style="list-style-type: none"> ● 教育委員会や学校にて多くの研修機会を設けた。 ● 教職員で構成する町教育研究会の人権・同和教育部会で継続して職員研修を行い、学校全体で人権意識の高揚を図り、進路保障の取組に努めた。 	9.0	改善し 継続	
課題			
人権に対する知識や理解、人権感覚を身につけるためには、継続して本事業を取り組む必要がある。また、その必要性を周知していくことが大切である。			
	主な事業内容と実施状況		実績評価
○人権研修 <ul style="list-style-type: none"> ● 転入教職員の人権・同和教育研修の実施 ● 特別の事情がない限り転入してきたすべての教職員が参加し、「邑南町の人権・同和教育の現状と課題、学校での人権・同和教育の推進」というテーマで研修が1学期に実施できた。 ● 各校での職員研修の実施 ● 各学校においては、全体計画をもとに年間研修計画を立てて職員研修を実施した。 ● 邑南町教育研究会 人権・同和教育部会を2回開催 ● 夏季研修会にて「しまねがめざす人権教育（実践編）」リーフレットを活用した校内研修の進め方について研修を深め、自校の研修の取組に生かした。 ● 多様性教育ガイドセミナーの実施 児童生徒が自分との関わりを大切にし、差別を読み解く確かな力、差別に立ち向かう力を育成するための手立てを学んだ。 			9

事務事業名	②実践的な学習の推進		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師力向上のための研修会は、13年間継続して開催している。 ● どの研修会でも積極的に学ぶ教職員の姿が見られた。 ● 研修の成果を授業に生かす学校が見られ、意欲的に学ぶ子どもの姿につながっていた。 ● 昨年度同様、学び合い授業づくりの自校の研究に役立てながら、児童・生徒の学習意欲や学力調査結果の向上につなげた。 ● 学習指導要領で示されている「主体的で対話的な深い学び」につながる授業改善を図ることができた。 	9.0	改善し継続
	<p>課題</p> <p>より多くの教職員が主体的に研修に参加できる工夫を運営面を含めて行っていくことが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 前年度の内容や参加者の感想などをまとめた研修案内を教職員に配布 ● 町教育研究会との連携を深める。 ● 本研修の意義を事業説明会などや学校訪問などで管理職や学校職員に伝達する。 		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	<p>○教師力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学び合い授業の公開と研究協議 各校、年に1回、学び合いの授業を公開し、研究協議を行うことで、授業改善の一助とした。町内の学校にも案内し、他校の授業をお互いに見合い、授業について協議することを通して、「主体的で対話的な深い学び」を目指す授業のあり方について学ぶことができた。 ● 情報活用教育講座の実施 町内の教職員・学校司書を対象に情報活用に関する研修を行い、資料などから必要な情報を引き出したり、まとめたり、表現したりする力を子どもたちにつける手法を学んだ。 ● 外国語セミナーの実施 外国語について、これからの学びの方向性と小学校と中学校の接続の在り方についての研修会を実施した。 ● 辞書引き学習会の実施 小学校低学年から言葉への関心を育てることで、基礎学力の定着とともに学習意欲の向上をはかるための辞書引きのあり方についての研修を実施した。 		9

事務事業名	③確かな学力を育む		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	基礎学力の向上・定着及び学習意欲の向上を目指した事業を行った。	9.4	改善し

<ul style="list-style-type: none"> ● 花まる算数教室 参加した子どもは楽しく学ぶことができた。年度末のアンケートは、ほとんどの子どもが「算数が好きになった、わかるようになった。また参加したい」と回答していた。各学校の学習支援にもつながっている。地域スタッフや高校生スタッフの多くの方の協力が支えとなって実施できている。 ● 低学年対象とした辞書引き学習会の実施 意欲的に辞書引きに取り組む子どもの姿が見られた。学習会後も継続して辞書引きに取り組み、1000枚以上の付箋を貼った児童も多く見られた。児童の読解力を高めたり、調べたりする力を育てるとともに、学習意欲の向上を高めることができた。学校毎の分析については各学校で分析を行っており、個に応じた指導に役立っている。 ● 全国学力学習状況調査・島根県学力調査の実施 調査結果から、各校において児童生徒一人ひとりの課題を明確にし、改善の方向性を見出すための分析を行うよう指導した。訪問指導などで各学校に聞き取りを行った結果、各校とも分析を踏まえ実態に沿った取組が行われた。各学校で分析結果を個に応じた指導に役立っている。 ● 学校司書連絡会の定期的な開催 各学校での取り組みについての情報共有やワークショップを行い、他校の取り組みを取り入れたり、新任の学校司書の知識を広げたりすることにつながった。また、県立図書館主催の研修会に参加する事で、新しい考え方を取り入れることができた。 ● 子ども笑顔キラキラサポート事業 学校からの配置要望人数、時間数に対して、調整をして配置を行った。また、支援を必要とする児童生徒について相談があった場合は、すこやか相談会を活用した相談支援チームによる学校訪問を行い、支援方法について検討、助言をした。 ● 外国語指導助手（ALT）招致 令和3年度夏よりALT3名体制としたことで、各学校へのALTの訪問時間が増加した。このことによりALTが授業者と連携しながら、授業をする場面を増やすことができた。小学校中学年の外国語活動では、チャンツや歌など楽しみながら行う活動を通して、外国語に慣れ親しむことができた。小学校高学年の外国語科では、ALTとの英会話をする機会が増えることで、必然性のあるコミュニケーションが生まれる言語活動を増やすことができた。中学校の英語科では、生徒が聞きたい、知りたい、伝えたいという感じる内容や場面を設定し、ALTと繰り返し会話をすることで、コミュニケーション能力を高めることにつながった。 		継続
--	--	----

課題		
<ul style="list-style-type: none"> ● 花まる算数教室 「分かるようになった」という児童の意識や指導スタッフから肯定的な「ことばがけ」を受け参加者の満足度は高く、きめ細やかな支援体制を維持するため学年分散開催をした地域もあった。多くの地域スタッフ確保が必要。 ● 全国学力学習状況調査・島根県学力調査 各校での取組について、訪問指導などを利用して、読解力向上の取組や各学校の効果的な取組を紹介することにより、各校の学力向上につなげて行く必要がある。 ● 学校図書館 図書の廃棄について各学校との共通認識はできているが、邑南町としての廃棄基準の作成が求められる。 ● 子ども笑顔キラキラサポート事業 児童生徒の実態把握や支援、対応について、必要に応じてすこやか相談会で対応しているが、年々相談件数も増え、比例して支援員の配置人数、時間数ともに要望は増えているが人材不足で要望どおり配置できない状況である。 ● 教育設備の活用 予算的な課題が多く、各設備が老朽化しており、教材及び設備を活用した授業は、教職員の努力に依存しているところが大きい。 		
主な事業内容と実施状況		実績評価
<p>○基礎学力の向上・定着 基礎学力の向上・定着及び学習意欲の向上を図るために、算数や語彙学習に重点を置いた事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 花まる算数教室 羽須美・瑞穂地域～6回 石見地域～学年分散方式で6回実施。 (登録者 120名 全小学生の 28%登録 参加人数 22%増) ● 辞書引き学習会 小学1・2年生対象で町内すべての小学校が参加。辞書引き学習を行うことでの語彙数の向上を図るとともに、1年生のうちから辞書に親しませることで学校や家庭でも辞書を活用する習慣を身につかせた。 		10
<p>○学校図書館活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 定期的に学校司書の連絡会を実施し、各校の取組みについての情報共有や図書館見学を行った。 ● 学校司書の全校配置(平成21年度から町内全11校に1名ずつ学校司書を配置) ● 県の「学校司書等による学びのサポート事業」を活用し学校司書の人件費の確保。 ● 学校図書館を活用した授業において、子どもたちが自ら調べ、まとめたり、プレゼンテーションしたりする事で、情報活用の力が身につけてきている。 		10

<ul style="list-style-type: none"> ● 調べる学習作品展の年1回開催 ● 学校図書館などを活用した調べる学習作品展を実施した結果73作品の出品があった。 	
<p>○笑顔キラキラサポート事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生活支援員を小学校4校に7人配置した。 ● 学習支援員を小学校6校に9人、中学校3校に3人配置した。 	9
<p>○ICT教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和6年度はタブレットドリルを導入し、中学校では数学、小学校では算数の授業に活用をした。また、持ち帰りが可能な児童生徒については、タブレットの持ち帰りをを行い自習を進めることができた。 ● 校務支援システムを三市三町で共同調達し、教員に対しての研修会を開催した。 ● 児童生徒の気付き「いいところみつけ」を入力することで、今後の生徒指導に役立てた。 ● ICT支援員を配置し、学校現場において事業支援ツールの活用推進、各種ICTツールのサポートを行った。 	8
<p>○学力調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全国学力学習状況調査を4月に実施 (対象：小学6年生、国語・算数 / 中学3年生 国語・数学) 小学校：国語・算数～県平均をやや下回る。 中学校：国語・数学～県平均 ● 島根県学力調査を12月に実施 (対象：小学5・6年生、国語・算数 / 中学校1・2年生、国語・数学・英語) 小学5・6年生：国語・算数は県平均よりやや低い。 中学1・2年生：国語・数学～県平均、英語～平均よりやや高い。 調査教科における強み・弱み、生活アンケートから見える特徴等、邑南町全体の傾向を分析するとともに今後の授業改善の視点について示した。また、各学校で自校の調査結果の分析を行い、日々の授業改善や個に応じた指導に役立てている。児童生徒が自らの考えで整理し、自分の言葉で語尾までしっかり話すことや書くことができるように繰り返し粘り強く指導をしている。 	9
<p>○外国語指導助手招致（小学校・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 外国語指導助手（ALT）を3名配置し、1名が3～4校を担当し、町内11校へ訪問している。 ● 小学校では、5・6年生で教科化された英語の授業、3・4年生で外国語活動での指導を行い、教職員・児童とゲームを交えながらコミュニケーションを図ることで、児童が英語に親しむことができた。また、授業以外の時間にも児童と触れ合うことで、国際交流を図った。 ● 中学校では、基本的な英会話能力の向上を図るために週2日～3日訪問し、授業の打ち合わせや振り返りを行う時間を確保することで、充実した外国語指導を行った。また、休み時間などに生徒と触れ合うことで、国際交流が実施できた。 ● 外国語指導員（JETプログラムコーディネーター）を令和6年8月に 	10

<p>配置し、小中学校における外国語授業等の補助を行い、外国語担当教員等に対する語学に関する指導方法の情報提供を行った。また、ALTと教育委員会担当者や学校との連絡調整の支援を行った。</p>	
<p>○教育設備の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電子黒板、各教室に設置したプロジェクター、書画カメラ、スクリーン、教育用パソコンなどの設備を活用した授業の実施 (中学校においては、技術の授業での「情報の技術」での実習、その他理科・数学・英語などでの教材の提示を行っている。小学校においては、すべての教科への活用に努めている。社会・理科・総合学習などでの調べ学習に活用している。) ● 小学1年生から中学3年生までの児童生徒に対して、1人1台端末の導入を進め、さらにオンライン授業を進めるための機器についても導入をした。また、町内の11校全てに校内で使用できる校内LAN(Wi-Fi)を整備している。 ● 貸出し用ルータの購入や、邑南ケーブルテレビ加入促進のため要綱制定を行い、持ち帰り学習が出来るよう整備している。 	10

事務事業名	④特別支援教育体制の構築		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<ul style="list-style-type: none"> ● 特別支援相談ネットワーク 学校や保育所・園に浸透し、相談の場として広く活用されている。特別支援学級の新設に伴い、必要に応じてケース会議、授業参観など実施した。また、特別支援学級の教育課程編成については浜田教育事務所から特別支援教育担当指導主事を招き、特別支援学級教育課程の個別相談会を実施した。 ● 相談支援ファイルすこやか 必要とする児童に適宜配付を行った。また、特別支援教育コーディネーター連絡会で活用について継続して情報提供を行った。 ● 通級指導教室 各学校の児童生徒の状況に応じた指導ができた。 ● 教育支援センター（たけのこ学級） 定期的な学校訪問で実態把握、情報交換を行うことができた。また、町スクールソーシャルワーカー（SSW）や石見養護学校相談支援スタッフと連携し、児童生徒の特性にあった対応ができた。学校と役割分担をしながら、別室登校の児童生徒との関わり、保護者面談を行った。 ● いじめ対応支援事業 QU アンケート 各学校で学級づくり、人間関係づくりに活用されている。 ● 教育支援委員会を年3回開催 幼児・児童・生徒の就学について慎重に協議し、町教育委員会に答申を受けた。 	9.4	改善し 継続	

課題		
<ul style="list-style-type: none"> ● 相談支援ファイルすこやか 相談支援ファイルすこやかを作成して10年以上経過している。就学前から就労期まで、「切れ目のない支援」を行うため、支援を受ける方にとってより使いやすい様式・構成となるよう見直す必要がある。 ● 教育支援センター 不登校（傾向）であった生徒について、中学校卒業前に中学校から教育支援センターの情報提供を保護者などに積極的に行う必要がある。また、必要に応じて在籍高校と情報交換を行う必要がある。 ● QU アンケート アンケート結果は、授業づくり・学級づくりの資料として十分に活用されるよう全国・県学力調査とも比較し確認していく必要がある。 ● 教育支援委員会 学校内の支援検討会から町教育支援委員会へのつなぎ、連携について、より一層の充実が図られるよう引き続き周知する必要がある。また、学校と保護者が就学のあり方について合意形成を図ることができるよう学校と適宜情報共有を行い、引き続き連携して行く必要がある。 		
主な事業内容と実施状況		実績評価
○特別支援相談ネットワークの推進 <ul style="list-style-type: none"> ● 邑南町特別支援合同相談会の定期開催を15回、臨時開催を25回の計40回開催した。相談件数：62件 ● 特別な支援の必要な子どもの早期発見・早期支援につなぐため、夏の保育所・園巡回訪問を各保育所・園（町内9箇所）を8月に実施した。 ● 特別支援相談ネットワーク総会を開催。 ● 特別支援連携協議会は年度末に開催し、令和6年度のふりかえり、令和7年度の計画案について協議した。 		10
○教育支援委員会 教育支援委員会の審議会を開催した（令和6年度審議対象者16名）。 実態把握（保育所・園、小、中学校訪問） 就学支援についての保護者面談を個別に実施		10
○通級指導教室 <ul style="list-style-type: none"> ● 担当職員が瑞穂小に3名、瑞穂中に1名が配置されている。 ● 令和6年度新規通級利用者 小学校4名（総数30名）、中学校3名（総数11名） 		10
○教育支援センター（たけのこ学級） 利用者：16名（うち2名町外利用）、延べ利用人数：513人 <ul style="list-style-type: none"> ● 学校巡回：小学校8校、中学校3校を巡回 ● 相談支援チームなど関係機関と必要に応じて情報交換ができた。 ● 県立石見養護学校や矢上高等学校等と支援の相談など連携を図った。 		10

<ul style="list-style-type: none"> ● 必要に応じて登校支援、別室登校児童生徒と関わり、保護者面談を実施した。 ● 他市町児童生徒の受け入れを行った。 	
<p>○スクールソーシャルワーカーの活用 スクールソーシャルワーカーを2名配置し、いじめや不登校などの問題に対する教育相談体制を整備した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各学校に訪問し、SSWの事業説明を実施した。 ● 個別に家庭訪問やインターネットを利用したオンラインでの面談も実施。 ● ケース会議にも参加し、関係機関と連携を図り、問題解決に取り組んだ。 ● 令和6年度の相談件数は172件、対象となった児童生徒は25名であった。 	9
<p>○いじめ対応支援事業 町内小学校8校、中学校3校で1学期と2学期の2回アンケートQUを実施し、学級集団の状況を把握・分析していじめ対応の実践につないだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和4年度に発生したいじめの重大事態の事案について、該当校に対して、現在のいじめ問題に対する取組状況を定期的に把握することとともに助言を行った。 ● いじめ対策連絡協議会・研修会を実施し、いじめに係る法律や子どもの見立て方について研修を行った。 	10
<p>○こどもの居場所づくり 邑南町子ども第三の居場所づくりのため、教育支援センター、相談支援事業所、児童クラブなど子どもに関わる支援者へのニーズ調査、子どもたちへの聞き取り調査を行い、ニーズ把握に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 居場所づくりの検討 学校に馴染めないなどの悩みを抱える子どもに、安心して過ごせる居心地の良い居場所を提供し、学びの場の提供、情緒の安定や基本的な生活習慣改善など子ども一人ひとりのニーズに合わせた支援を実施し、生き抜く力を育みながら将来の社会的自立につなげることを目的とした居場所づくりを検討した。 ● 校内教育支援センター設置の検討 令和6年度に新たな事業として、校内教育支援センターの設置に向けて準備を進めてきたが、「町内の教育支援センターとの違い」や「設置を小中学校のどちらにするか」についての言及があり、調査・検証を行い、邑南町にあった形式での活用を考えるべきであるとの見解が示された。今後は、検証を通じて試験的な運用をしながら、町内の実情に即した校内教育支援センターの検討を進めていく。 	7

事務事業名	⑤就学環境の充実		
	総合点検・評価		
<ul style="list-style-type: none"> ● スクールバスについて、概ね計画どおり運行できた。 	総合 評価	継続、 廃止等	
<ul style="list-style-type: none"> ● 就学援助費及び通学助成費の給付、就学時健康診断は、予定 	9.8	継続	

どおり実施することができた。		
課題		
<ul style="list-style-type: none"> ● スクールバス車両については、計画的に順次更新し、利用者の安全輸送を確実にを行うための車両整備が必要である。 ● 乗車人数の実績や過去の修繕実績や購入後の経過年数などを総合的に考慮し、車両の再編計画を適宜修正していく。 ● 路線は幹線道路が主となっており、バス停まで数kmを歩く児童生徒がおり枝線も経路に入れてほしいとの要望はある。 ● 就学時健康診断では、転居予定者について現居住地校区の小中学校での健診を案内したため、転居先の校区の小中学校での受診を要望される事例もある。転入予定者や転居予定者について早めに把握し対応する必要がある。 		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
○スクールバス運営 <ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒の通学手段を確保するため、スクールバス 10 路線（雪田線、宇都井区スクール専用便、戸河内・長田線、下口羽・上田線、高原線、出羽線、市木線、日和線、日貫線、石見中学校・日貫小学校通学支援便）を運行し、学校教育活動の支援に努めた。 ● 土日などの学校行事の実施により、定期便以外の時間帯にスクールバス運行が必要な場合には、学校の要望に応じて臨時便を運行した。 		9
○就学援助費の給付 <ul style="list-style-type: none"> ● 要保護、準要保護児童生徒就学援助費の支給 認定者：小学生 69 名、中学生 47 名 支給額：小学生 5,113 千円、中学生 5,071 千円 支給額には、小学校入学前 5 名 286 千円 小学 6 年（新中学 1 年） 20 名 1,260 千円を含む。 ● 特別支援就学奨励費の支給 該当者：小学生 1 名、中学生 2 名 支給額：小学生 35 千円、中学生 108 千円 		10
○通学助成費の給付 <ul style="list-style-type: none"> ● 通学費助成 該当者：小学生 7 名 2 世帯、中学生 0 名 支給額：小学生 33 千円、中学生 0 千円 		10
○就学時健康診断 <ul style="list-style-type: none"> ● 就学時健診：小学校 8 校を会場に 10 月から 11 月に実施 対象者 62 名 実施内容：内科・歯科検診、視力検査、聴力検査、知能検査 		10

施策2 小さな学校の大きな挑戦を支援
～子どもたちの自信を育て、地域に信頼される学校～

事務事業名 ①地域を担う意識の育成			
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<ul style="list-style-type: none"> ● 総合的な学習の時間の年間計画にもとづいて、各学校で実施形態、内容などは違うが講話や体験が行われていた。 ● キャリア教育は平成29年度より継続して実施している。校長会や事業説明会などでキャリア学習の実施について依頼や説明し毎年度実施につなげている。 ● 地域の特性などを生かした、特色ある教育活動を行っている日貫小学校を小規模特別認定校に指定し、令和2年度より校区外から就学できる制度を設け認定校説明会等を実施している。 		9.0	改善し継続
<p style="text-align: center;">課題</p> キャリア教育は、キャリアパスポートの開始により、各校での実践を重ねるとともに、児童生徒の振り返りを学期ごとに充実・継続する必要がある。			
主な事業内容と実施状況		実績評価	
○キャリア学習 <ul style="list-style-type: none"> ● 医療講話 医療関係ばかりでなく、全ての学校においても、人との出会いを大切にしながらの学習を深めている。町内の全ての学校において児童・生徒一人ひとりが、キャリアパスポートを活用し、自らの学習状況などを振り返って自己評価をしたり、これからの生き方について考えたりすることを行っている。 地域医療講話：口羽小・阿須那小（5・6年） 羽須美中（1・2年）、 助産師等講話：高原小（5・6年）、日貫小（全校）、 羽須美中（1・2年）、瑞穂中（1年） 石見中（1年） ○小規模特別認定校説明会 <ul style="list-style-type: none"> ● 10月31日（木）矢上交流センターにて開催 日貫地区活性化協議会会員、日貫小学校管理職、教育委員会から教育長ほか2名が参加。 		9	

事務事業名 ②地域との連携・協働			
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<ul style="list-style-type: none"> ● おおなんドリーム 各学校で探求的な学習に取り組み、各学校で成果発表まで実施した。 ● ふるさと教育の推進 小学校から中学校までの9年間を一貫したふるさと教育を 		8.6	継続

推進する体制を計画し、各学校（中学校区単位）や公民館に説明を行った。		
課題		
ふるさと教育の推進するために各学校（中学校区単位）や公民館に説明を行ったが、今後は実践していくことが重要である。		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
○ふるさと教育の推進 ● 地元の人的資源や環境資源を活用し、講演会や体験活動を計画・実施した。 ● 小学校から中学校までの9年間を一貫したふるさと教育を推進する体制を計画し、各学校（中学校区単位）や公民館に説明を行った。		10
○おおなんドリーム 各学校が学習発表会や文化祭などを利用し、地域の関係者等を招いて、各学校で取組んだ探求学習の成果を発表した。		7
○学校関係者評価 ● 町内小中学校11校で学校関係者評価委員を選任した。 ● 各校で年3回以上委員会議や委員参観の日を設定し、学校の自己評価結果を踏まえた評価を実施し町教育委員会に報告された。 ● 結果は保護者などへ公表した。		10
○地域とともにある学校づくり（コミュニティ・スクールの推進） 目標やビジョン（地域の子どもたちにどのように育ててほしいのか、どんな力を付けてほしいのかなど）を共有し、地域・学校・家庭とが一緒になって取組むことを目的として、地域の住民や行政、学校（小・中学校）が主体的・創造的な対話を行いながら、一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校づくり」の取組みを進めた。 ● 羽須美地域：羽須美地域全体を対象とした羽須美中学校区 ● 瑞穂地域：瑞穂地域全体を対象とした瑞穂中学校区 ● 石見地域：石見地域全体を対象とした石見中学校区		7
○中学校部活動の地域移行 ● 段階的な地域連携と地域移行の検討のための体制づくりのため、邑南町スポーツによるまちづくり方針策定委員会を立ち上げ、第1回の会議を実施した。課題の解決に向けての協議には至らなかったが、部活動の地域移行についての、国、県、他自治体や競技団体の動向や情報収集し、今後どのように進めていくかを共有した。 ● 町スポーツ協会の実証事業として、①地域クラブの立ち上げを支援する事業②指導者の資格取得支援事業を実施した。		9

施策3 「安全・安心な教育環境づくり」への支援

事務事業名	①学校設備の整備		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>○石見中学校改築事業 R2年度 基本構想基本計画、耐力度調査、地質調査、基本設計 R3年度 基本設計完了、実施設計完了 R4年度 改築工事 契約R4.9.5 複数年工事（債務負担行為） 解体設計業務完了・校庭外構設計業務完了 R6年度 改築工事 工期R6.5.31完了 解体工事 工期R7.2.28完了 校庭外構工事 R7.7.31繰越により完了予定</p> <p>○計画修繕の実施 学校施設の維持管理のため事前の聞き取りや定期的調査を行い、経年劣化の早期発見に努め、事前に計画をたてるとともに、必要に応じ安全点検を実施して改修を実施した。また、早期の対応が求められるものや法令等による改修、支援を必要とする児童生徒に対応するための教室環境の整備と改修を実施した。</p> <p>○緊急修繕の実施 施設の老朽化や落雷等による故障などの施設修繕について、その都度緊急対応により、安全性を確保した。</p>		9.0	改善し継続
課題			
<p>整備が完了した施設以外については老朽化による劣化が著しい施設があるため、緊急性を要する修繕工事により、応急的修繕を繰り返しているのが現状である。平成30年度に策定した学校施設長寿命化計画に基づき、大規模改修や更新対策、一般修繕などの予防保全的改修に転換していきコスト削減を柱とした学校整備を計画的に進めていく必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○学校施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 石見中学校改築工事（RC+W造、2階建、5964㎡） ● 石見中学校旧校舎解体工事（管理棟・教室棟・技術棟・体育館・物置ほか） ● 石見中学校電話システム構築業務（電話回線・IP電話システム構築） ● 石見中学校ネットワーク構築業務（基幹L2SW、エリア基幹L2SW、無線AP） ● 高原小学校改修（1期）工事（特別教室棟改修・屋根防水、避難階段改修等） ● 脱炭素交付金事業照明LED化工事（高原小体育館・羽須美中テニスコート照明） ● 小中学校衛生環境改修工事（口羽小トイレ洋式化と車イス対応トイレ整備） ● 小中学校LED照明（対象9校うち19教室のLED更新） ● 小学校防犯対策施設整備工事（防犯カメラ設置等：日貫小、市木小、 			9

<p>阿須那小)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小中学校外壁タイル修繕工事（法定 12 条検査指摘：口羽・阿須那小、瑞穂中） ● 矢上小学校校内放送設備修繕（放送卓更新・矢上改善センタースピーカー連動） ● 羽須美中体育館テラス防水修繕工事（2階テラス部防水塗装） ● 瑞穂中学校体育館屋根修繕工事（防水テープ・有圧換気扇） ● 石見東小学校特別教室改修工事（令和7年4月特別支援学級増への対応） ● 瑞穂中学校教室改修工事（令和7年4月特別支援学級増への対応） ● 応急措置が必要な個所の随時修繕の実施 （漏水配管修繕、フェンス修繕、遊具修繕、温水器修繕、エアコン修繕、保護継電器修繕、敷地内陥没補修ほか） 	
---	--

事務事業名	②児童生徒の健康安全対策		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<ul style="list-style-type: none"> ● 防犯パトロール 防犯パトロールは、児童生徒の登下校の安全確保に効果을 上げている。また、新規に青色パトロール隊の隊員になるための研修受講者が2人おられた。青パト隊の活動は、基本的にボランティアで行っていただいております、謝礼や燃料代について支払うことは予定していない。 ● 通学路の安全対策の実施 町と道路管理者、学校、警察などで組織する「通学路安全推進部会」を活用し、危険箇所の合同点検、対策協議を行い、早期の対策が必要な危険箇所は改善対策を実施した。 			
課題			
<ul style="list-style-type: none"> ● 児童生徒の安全対策で急務となるのが通学路の安全確保であり、防犯パトロールと通学路の安全対策の両面から実施していく必要がある。 ● 通学路安全推進部会において、毎年通学路の危険箇所の抽出や課題の検討、関係部署への働きかけを行い、危険箇所解消を図っているが、未対策箇所の早期改善に向けて取り組みを進めていく必要がある。 ● 点検を行った箇所、対策を講じた箇所のその後の点検などを各関係者で連携をして行う必要がある。 ● 現在、子ども安全センターの青パト隊は、各支部に10人前後の隊員がおり、パトロールに従事しているが、近年、隊員の高齢化によりパトロールに従事できる方が減ってきており、パトロールなどの活動の継続が難しくなっており、新規登録の募集活動に努めていく必要がある。今後も、青パト隊登録者が一堂に介して研修を実施し、日頃の活動に対し士気を高めてもらうことが大切である。 		10	継続

● 児童生徒の健康診断後の結果通知書や保健調査表の様式が学校ごとに異なるため、邑南町で統一し事務の効率化を図っていく必要がある。		
主な事業内容と実施状況		実績評価
○防犯・安全教育の推進 各学校でそれぞれ登下校時の安全指導、あいさつ運動、通学路の安全点検、避難訓練などの講習（研修）会を開催した。		10
○感染防止対策 各校で学校等欠席者・感染者情報システムを活用し、いち早く各感染症の増加傾向を把握して感染拡大防止に努めた。		10
○邑南町子ども安全センター 地域住民の防犯意識の高揚と安全活動ボランティアの育成を図るための取組を実施した。 ● 新規加入隊員を対象とした青パト隊の防犯パトロール講習会を実施した。 ● 青色回転灯によるパトロール（年末特別警戒活動など）を行うなど各地域で防犯のための各種活動を実施した。 ● 従事者数：83名（町民）、登録車両台数：83台（内公用車1台）		10
○学校保健安全衛生対策 学校保健安全法で定められている定期健診の実施及び修学旅行前健診などを実施した。 ● 各小中学校や学校医などの協力のもと、学校保健安全法施行規則に規定されている6月30日までにすべての小中学校で適切に定期健康診断を実施できた。 〔環境保健公社委託検診（心電図など）、内科検診、耳鼻咽喉科検診、眼科検診、歯科検診〕 ● 学校衛生基準に基づき、学校薬剤師及び養護教諭などと連携してダニアレルゲン検査、照度検査、空気検査を実施し、環境衛生の確保に努めた。 ○学校医との意見交換会 令和6年度はなし。次回は令和7年度の実施予定。		10

事務事業名	③その他		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
● 学校事務共同実施連絡協議会 事務職員未配置校において、事務の平準化のためグループ内での支援体制を構築し、グループ会を未配置校で開催するなど負担の少ない方法により、事務処理を行い学校運営に寄与することができた。 ● 奨学金は年間を通して適切に処理できた。 ● 教職員住宅は、必要に応じて速やかに修繕を行い適切な住宅管理ができた。		9.7	改善し継続

課題		
<ul style="list-style-type: none"> ● 学校事務共同実施 平成26年度より、11校のうち事務職員未配置校1校という状況になり、これまでどおりの活動を続けることが困難となっている。 年々増える事務量に対して、効率の良い方法を探っていく必要が生じている。また、事務職員未配置校への事務支援について、計画的な訪問のほか効率的・効果的な方法を考えていく必要がある。 ● 邑南町奨学金は、経済的に困窮している者がより利用しやすい制度の在り方を見直す必要がある。 ● 教職員住宅は、今後必要な住宅戸数や地域の検討、老朽化した住宅を含めた計画的な住宅管理に努める必要がある。 		
主な事業内容と実施状況		実績評価
○邑南町奨学金貸与事業 高等学校など、高等専門学校、専修学校、大学校または大学などに在学し、経済的に困窮している者に奨学金を貸与する。 令和6年度より貸与額を増額し、邑南町以外が実施する奨学金との併給を可能とした。 <ul style="list-style-type: none"> ● 令和6年度末時点貸与者4名 ● 令和6年度末時点償還対象者2名 ● 令和6年度末時点据置期間または償還猶予対象者2名 ● 償還完了者 1名 ● 免除者 0名 		10
○教職員住宅 <ul style="list-style-type: none"> ● 教職員住宅の保守・点検を行い、教職員が安心・安全に生活できるように努めた。(羽須美地域8戸、瑞穂地域13戸、石見地域16戸) ● 修繕が必要な箇所は随時修繕を行った。 		9
○学校事務共同実施 <ul style="list-style-type: none"> ● 邑南町学校事務共同実施連絡協議会設置要綱の一部改正を行い、さらなる学校事務部門の充実、強化の推進を図った。 ● 学校事務共同実施連絡協議会で、学校事務職員、町教育委員会や学校管理職との連携や、共同実施会を開くことで文書の整理保管などの事務の効率化を探った。 ● 西部(石見地域、市木)、東部(市木を除く瑞穂地域、羽須美地域)の2グループに分かれて活動を行い、事務職員未配置校への支援の継続を行った。 ● 矢上小学校に事務職員が加配され、西部グループ活動及び学校事務活動全体の質の向上、未配置校支援を中心に行っている。 		10

2. 地域を担う人材の育成（社会教育）

～学び合いによる豊かな地域づくり～

施策1 邑南町が推進する人材育成のステップ

～人づくり・地域づくり・町づくりを推進する社会教育～

事務事業名	①学校とともにある地域づくり		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の実情に応じて、学校単位、地域単位で「どんな子どもに育てたいのか」をまとめ、「共有された子ども像」を学校、地域、行政（公民館）で思いを共有することができた。 ● 再度、公民館と学校でお互いの計画や事業等の共有を行った。 	10	継続
	<p>課題</p> <p>コミュニティ・スクールの導入に向けて、各学校や地域の実態に合わせながら「育ちたい、育てたい子ども像」を共有しながら実施していく必要がある。</p>		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	<p>○学校とともにある地域づくり</p> <p>中学校区ごとに育てたい子ども像の共有をし、その具現化に向け、公民館と学校でお互いの計画や事業等の共有を行った。</p>		10

事務事業名	②地域学校		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	<ul style="list-style-type: none"> ● 公民館ごとに地域の魅力を発見・再認識できるよう意識し事業を展開した。 ● 起こしてはならない事故をうけて、安全管理を見直し、公民館まつり等を中止する館もあったが、今一度、安心・安全の徹底した活動を行うため研修等を実施し、屋内事業も含めて安心・安全を徹底した活動を心掛けて活動を行った。 	10	改善し継続
	<p>課題</p> <p>ふるさと教育を安心・安全かつ効果的に実施できるようにするため、子ども達だけでなく、親世代の参加者数や地域の協力者を増やすことが必要である。</p>		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	<p>○地域学校の開設及び実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 阿須那・軍原キャンプ場で川遊びや魚釣り、水風船合戦など、保護者世代や地域の方、子どもが一堂に会してふるさとの自然や良さを体験した。 ● 口羽・地域の方を講師に地域のことを学ぶ学習会を実施した。 2泊3日の通学合宿を開催し、親元を離れて自立した生活を体験するとともに、地域の方からふるさとについて学んだ。 ● 田所・地元産の餅米を使い、瑞穂小学校の児童や東光保育園の園児を対象とした餅つき大会を実施した。 ● 出羽・出羽わんぱく学校を6回開催 		10

<p>(野菜、パン作り、大豆収穫、味噌、恵方巻づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高原・・・自治会が行う化石発掘体験活動の支援。飛来したアサギマダラの情報を小学校に提供し地域資源の紹介を行った。 ● 布施・・・ぜにほう学校で地元の方を講師として「坐禅体験・工作教室」「親子料理教室」を開催した。 ● 市木・・・「アユのつかみ取り体験会」を実施した。 ● 矢上・日和・・・森林教育を実施した。 ● 中野・・・地域の方をお招きして餅つき体験での交流や、講師として参加してもらい書初め教室を実施した。 ● 井原・・・学校と公民館が連携しながら地域のひと・もの・ことを活用して複数取り組みを実施した。また、単館の事業においても地域の方々と一緒に事業を行い、ICT 支援につながるような事業など複数回実施できた。 ● 日貫・・・米作り・そばづくり体験活動を実施した。 	
---	--

事務事業名 ③ 家庭教育					
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等		
<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちのことばや思考の力に関する講演会を実施した。 ● 親子をターゲットにした「WE フェス」(社会教育フォーラム)を開催し、不登校に関する講演会や親子あそび、親子で楽しめるブースを設置し、親子等で様々な学びや体験してもらう機会をつくった。 ● WE フェス内で「ミニミニ外国」も実施し、家庭だけでなく、地域で子育て、子育てを行う機運を高めた。 				9.3	改善し継続
課題					
今後も同様な講演会やイベントを継続していき、様々な教育に関わる団体等と協働しながら活動を行い、邑南町の子育て、子育てを楽しく考える場をつくっていきたい。					
主な事業内容と実施状況			実績評価		
○家庭教育の支援			9		
<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちのことばや思考の力に関する講演会を実施した。 ● WE フェス(社会教育が幅広く、自由で楽しいことを知ってもらうイベント)にて、不登校に関する講演会や親子で一緒に身体を動かす体験会を実施した。 					
○子育て講演会の開催			10		
<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちのことばや思考の力に関する講演会を実施した。 ● WE フェスにて子どもたちの学校や公民館、地域活動での成果物展示を行ったり、親子で学び体験できるブースを設置し、多くの親子が体験した。 					
○子育てに関するネットワークの構築			9		
親子をターゲットにした「WE フェス」を開催し、普段から子どもたち等を対象に様々な学ぶ機会を提供している団体に出展してもらい活動の周知を行った。					

○自然教育体験事業の推進	9
<ul style="list-style-type: none"> ● 自然体験活動安全管理マニュアルの整備 ● 安全に自然体験活動ができるよう貸出用のヘルメットを導入した。 	

事務事業名 ④青少年教育		総合 評価	継続、 廃止等
総合点検・評価			
<ul style="list-style-type: none"> ● 地域素材（ひと、もの、こと）を生かして、子ども達が実践したい活動を協働で実施した。 ● 地域の資源や人を知り、子ども達自身でできることを考え、実践することを通して、ふるさとを誇りに思い、地域の将来を見据え、自分の未来を考えていく意識の醸成を図ることができた。 			
課題			
子どもたちのやりたいことを地域資源を活用しながら、公民館や地域でカタチにしていくことから始め、地域や公民活動につなげていく必要がある。			
主な事業内容と実施状況		実績 評価	
○体験活動事業 <ul style="list-style-type: none"> ● 阿須那・・軍原キャンプ場で川遊びや魚釣り、水風船合戦など、保護者世代や地域の方、子どもが一堂に会してふるさとの自然や良さを体験した。 ● 口羽・・地域の方を講師に地域のことを学ぶ学習会を実施した。 2泊3日の通学合宿を開催し、親元を離れて自立した生活を体験するとともに、地域の方からふるさとについて学んだ。 ● 田所・出羽・・ふるさと探検隊で山菜採りを開催し採った山菜を天ぷらやチヂミにして食べるなど食育の推進を図った。 秋には神紅のハウスに行き試食等を行い地域の資源を学んだ。 ● 出羽・・わんぱく学校（野菜、パン作り、大豆収穫、味噌、恵方巻づくり）を6回実施した。 ● 布施・・ぜにほう学校（地域学校）と共催で地元の方を講師として「坐禅体験・工作教室」「親子料理教室」を開催した。 ● 高原・・化石発掘体験活動の支援と地域団体と共催して瑞穂ハンザケ自然館の見学を行った。 ● 市木・・「アユのつかみ取り体験会」を実施した。 ● 矢上・日和・・いこいの村にて森林教育を実施した。 ● 中野・・鶴首カボチャを植えて、ハロウィンの日に持って帰ってもらった。 ● 井原・・学校と公民館が連携しながら地域のひと・もの・ことを活用して複数取り組みを実施した。 単館の事業においても地域の方々と一緒に事業を行い、ICT支援につながるような事業など複数回実施できた。 ● 日貫・日和・・小学生児童に対して様々な体験活動を実施するカルチャーバスを実施した。 		10	

● 日貫・・あゆの生態を学び、つかみ取りを行い、食べるまでを実施した。小学5・6年生を対象に紙漉きを実施した。	
---	--

事務事業名	⑤成人教育		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	<ul style="list-style-type: none"> ● 参加者が参加しやすい環境を整えるため、リモートアクセスツールを使用し、出かけやすい各地域で研修を開催した。 ● 体験をふまえて研修を開催し学びを深めた。 	10	継続
	課題		
	<ul style="list-style-type: none"> ● 周知（広報）の仕方について、多くの方に参加していただけるように、引き続き早めにチラシなど配布し、関係団体やグループにも周知をしていく必要がある。 ● 時代の変化に合わせた研修会を実施していき、町民が求める情報や学びを提供していく必要がある。 		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	○ 邑南町民大学の開催		10
	● 「邑南町人権講演会」（305名）		
	● 「たのしくのび～る即伸びキッズストレッチ：2講開催」（60名）		
	● 「より良い眠りで脳・身体・こころを健康に」（70名）		

事務事業名	⑥ボランティア活動の機会の充実		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	学校支援からのボランティア育成について地域コーディネーターに積極的に活動してもらい、学校支援を中心とした「応援団」の増員・設置に努めた。地域の方々を巻き込むことができている。	10	継続
	課題		
	ボランティア登録者数は238名となり、高齢化等より、登録者数は減少している状況だが、公民館事業や学校の授業等で地域住民が関わる機会を増やすことによりボランティア等を増加が期待でき、そこから子どもたち、学校、地域がお互い良い方向に向くような関係性と事業展開を期待できる。		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	○ ボランティアの活動支援		10
	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の資源を活用した人材育成のためのボランティア活動、研修機会や情報の提供を行い、地域コーディネーターへも情報提供を行った。 ● 安心して活動してもらえるよう保険加入などの支援を行った。 		
	○ 人材バンクの整備(学習支援の視点から)		10
	<p>ボランティア登録者数は、高齢化等より登録者数は減少している状況だが、若者が所属する地域団体等が積極的に地域や子どもたちに関わるようになっていく。</p> <p>今後もボランティア登録の依頼を行い、地域コーディネーターと協力しての学校支援を行っていく。</p>		

事務事業名	⑦学習支援者の確保と育成		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内にある自主的なサークルなど多くの団体・グループに、必要な研修の場や講演会などの案内を公民館に協力してもらい積極的に周知することができた。 ● 様々な学びの提供やファシリテーターを行うことができる社会教育主事講習の受講を公民館主事に周知している。公民館活動の中での事故をうけて、安心・安全の徹底した活動を行うための研修等を実施した。 	9.0	改善し継続
	課題		
	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種少年団体指導者(登録指導者含む)の研修などのさらなる参加を促すための情報提供や周知が必要である。 ● 事故の発生を防ぐために安全確保の研修や救急救命、応急処置等の研修の実施と支援者等が積極的に参加できるよう幅広く適切に周知を行う必要がある。 		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	○少年団体指導者の育成 町民大学やスポーツ少年団指導者講習会などの事業案内、こども会や地域学校関係者、青少年育成邑南町民会議委員など各種団体へ案内を行い、活動を支える支援者、指導者の研修の場の確保を行った。		9
	○社会教育主事の育成 社会教育の指導者養成のため、公民館主事1名が社会教育主事研修を受講した。		9

事務事業名	⑧団体・グループの育成・支援		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	子ども会育成会の支援について、保険加入促進や町民大学・県子ども会連合会からの研修案内など、学習機会についての情報提供や保険加入手続きをすることで、各団体の年間活動の把握など緊密な連携による支援体制の構築に努めることができた。	10	継続
	課題		
	地域では、自主的なサークルなど多くの団体・グループが活動しているが、個々の組織それぞれが後継者不足などの課題に気づき、その解決課題に取り組める人づくりのために地域に密着している公民館と連携し、研修など企画していく必要がある。		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	○社会教育関係団体等の育成支援 <ul style="list-style-type: none"> ● 町内の社会教育関係団体に研修や講演会などの案内を行った。 ● 公民館だよりや教育委員会だよりなどを配布し情報提供を行った。 		10
	○子ども会育成会の支援 町内の子ども会育成会へ学習機会についての情報提供と保険加入促進を行った。		10

事務事業名	⑨学習情報の提供		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	本町広報誌の連載、教育委員会及び公民館だよりなど、紙媒体での情報提供のほか、公民館だよりは邑南町ホームページでも閲覧できるようにしている。また、地区ごとの公民館同士の共催事業を実施し、より広範囲において情報の共有ができた。	9.0	改善し継続
	課題		
	各公民館で開催する地域課題の解決のための講座など、町民の多くが関心のある内容の講座は地区限定ではなく、全体広報などを行い周知していく必要がある。		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	○広報・啓発活動の充実		9
	<ul style="list-style-type: none"> ● 町広報誌・教育委員会だより・公民館だより・町ホームページ・ケーブルテレビや公民館まつりなどのイベントでの呼びかけにより、生涯学習活動の普及、啓発に努めた。 ● 各地域の情報が全町はもとより、町外にも伝わるよう各機関が連携した情報提供に努めた。 		
	○情報提供資料の充実 公共施設に充実した情報提供資料を備えた。		9

施策2 共生社会の実現に関する事業

～ユニバーサルな意識を確実に後世に残すために～

事務事業名 ①共生社会の実現			
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<ul style="list-style-type: none"> ● 共生社会の実現を図るため、邑南町共生社会推進アドバイザーによる講演会を実施し、心のバリアフリーも含め町民一人ひとりの意識の醸成を図る取り組みを行った。 ● 日本で初めて開催されるデフリンピックの魅力についてデフ・アスリートによる手話での講演会を開催した。また、手話への理解を深めることができた。 ● フィンランド共和国のエスポー高校とのホームステイ交流は、両国の文化を学び合い、多様な考えを知る機会になった。 		10	継続
課題			
パラリンピックに対してデフリンピックは認知度が低い。			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○ユニバーサルの推進			
<ul style="list-style-type: none"> ● フィンランド共和国のエスポー高校が邑南町を訪れ、地域交流となるホームステイを実施し、お互い異なる文化を学び合い、深い絆を結ぶことができた。 ● 誰もが幸せと感じるまちづくりの推進として、障がい者競技であるゴールボール体験会を町内だけではなく他自治体にも出向き実施することで、様々な方に体験していただいた。 		10	
○スポーツを通じての共生社会実現の推進			
<ul style="list-style-type: none"> ● ゴールボールやフィンランドの軽スポーツであるモルックの体験会を学校や公民館などの施設で12回行った。 ● 日本ゴールボール協会による「チャレンジゴールボール大会」が町内で開催され、町内チームを募り体験も含めて行った。 ● パラリンピックメダリストによる講演会も実施し、スポーツを通しての「共生社会（障がい・障がい者理解）」について学ぶことができた。 		10	

施策3 「学び」と「交流」で繋がる公民館事業
～魅力ある地域を支える人が育つ公民館～

事務事業名		①公民館の整備・充実	
		総合点検・評価	総合評価
<p>邑南づくり教育計画や邑南町の未来を創造する公民館などをもとに12公民館ごとに年間計画を作成し活動推進協議会で承認してもらい、公民館活動を展開した。</p> <p>公民館活動の中での事故をうけて、安全管理を見直し、公民館まつり等を中止する館もあったが、今一度、安心・安全の徹底した活動を行うため研修等を実施し、屋内事業も含めて安心・安全を徹底した活動を心掛けて活動を行った。</p>		9.0	継続、廃止等 改善し継続
<p>課題</p> <p>安心・安全に事業展開を実施するためのボランティアスタッフを確保する。より多くの住民が公民館や地域の活動に関心を持ってもらえるような働きかけが必要である。</p>			
		主な事業内容と実施状況	
<p>○公民館活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全公民館・公民館活動推進協議会を開催し、活動計画の策定や事業内容の検討を行い、各種活動を実施した。 ● 阿須那・移動公民館により4地区にも出かけ公民館活動の推進に努めた。 			実績評価 9
<p>○地域づくりへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 阿須那・あすな地区応援隊と毎月会議を行い、情報共有や共催事業を行うとともに活動の支援を行った。 ● 口羽・毎月開催される地域コミュニティの会合（口羽地区定例協議会）に出席し情報共有に努めた。通学合宿の取組を通じて、事前の会議・事業実施に多くの地域住民に協力いただくなかで、横のつながりをつくることのできた。 移動公民館を開催し、普段公民館に足を運ぶことの少ない方に公民館の活動について知ってもらいきっかけづくりができた。 ● 田所・地区別戦略と連携して、地域のお宝である二ツ山整備を継続した。秋には地区別戦略どがあずしょう会の主催でイベントを開催するにあたり後援を行った。 ● 出羽・出羽地区運営協議会や久喜銀山振興協議会の事業実施地域運営組織に関する支援を行った。 ● 高原・両自治会の活動支援を行った。 邑南町社会福祉協議会と地区別戦略発展事業団体「高原を楽しくする会」と共催した事業を行い、異年代の交流の場を設け、地域の活性化につながった。 ● 布施・銭宝地区別戦略実行委員会と毎月会議を行い情報共有を図った。また自治会と共催で避難訓練・研修会を開催した。 ● 市木・市木地区連絡会を行い、地区内の情報共有・発信に努めた。 ● 矢上・地域コミュニティである「矢上地区コミュニティ委員会」及 			9

<p>び「矢上地区戦略事業協議会」の事業サポートを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中野・・加茂の春市にて中野地区別戦略と協働しフリーマーケットを開催した。 ● 井原・・地域を盛り上げる団体である井原 MIRAI クラブへの支援を行った。会議、イベントでの準備や当日運営など数多く支援を行った。自治会を統合するための支援を行った。 ● 日貫・・自治協の会議等に参加した。 地域のイベントである「平原しだれ祭り」と「長浜人形展祭り」の協力をを行った。 ● 日和・・地域や地区別戦略の動きを公民館だよりや公民館ロビー展示により情報提供、周知を図った。 地域とともにある学校づくりの取り組みを実施し、学校や地域とともに設定した地域目標を活かした事業を実施した。 	
<p>○生涯学習情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全公民館・・公民館だよりを毎月発行し、各館と元気館ロビーに紹介コーナーを設けるとともに、併せて町ホームページの公民館だよりも更新している。その他にも公民館行事や様々な情報を、ケーブルテレビや公民館だより等で定期的に情報発信を行った。 ● 口羽・・公民館だよりで図書情報を記載し、年に2回県図書の一覧を配布し図書コーナーの利用促進につなげた。 ● 田所・・地区別戦略どがあずしょう会との二ツ山整備や共催イベントの情報発信は、SNSを活用した。 ● 中野・・年間を通じて本を借りてもらいやすいように図書の展示を行った。 ● 市木・・「市木面」(市木地区に伝わる神楽面)を常設展示している。 ● 日和・・高齢者サロンで作成した作品の展示を年間を通じて実施した。 	9
<p>○公民館施設整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 出羽公民館：多目的ホール照明 LED 化 ● 中野公民館の側溝拡張工事次年度繰越（令和7年7月末完了予定） ● 口羽公民館 LED 化 	9

事務事業名	②健康・福祉に関する学習		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
保健課や運動指導士と連携してウォーキングや認知症予防教室などの事業の声かけを行い、様々なスポーツを楽しんでもらい、健康づくりや交流を図った。		9.0	改善し 継続
課題			
地域住民で自主的に活動ができるように、保健課など関係機関の協力を仰ぎながら支援を行う必要がある。			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
○健康増進事業の推進			9
<ul style="list-style-type: none"> ● 阿須那・・移動公民館事業で「椅子ヨガ」を4地域で開催した。 ● 口羽・・毎週水曜日に運動教室、月1回認知予防教室、隔週でシニア 			

<p>エアロビ教室が地域住民により自主的に開催されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 田所・・・認知症予防教室を毎月開催した。 運動指導士や保健師の指導による運動教室を定期的で開催した。 ● 出羽・・・運動教室を毎週木曜日に実施している。 ● 高原・・・姿勢を美しくするための自主活動団体の立ち上げ支援を行った。 既存の自主活動団体にモルックを勧め複数回体験してもらった。 ● 布施・・・保健課と連携して高齢者を対象とした運動教室を行っている。 公民館活動推進協議会のコミュニティ部主催の銭宝冬期オリンピック、福祉環境部主催の介護・福祉に関する学習会を開催した。 ● 市木・・・運動教室を毎週木曜日（第4を除く）、認知症予防教室を毎月第4木曜日に実施している。運動指導士や保健師を講師に招き、事業の充実を図った。 地域住民の健康増進を目的に、グラウンドゴルフ大会を開催した。 ● 矢上・・・主に高齢者を対象に3B体操による健康増進事業を毎月実施した。（すまいる教室） 認知症予防教室を毎月実施した。モルックや苔の寄せ植えなど参加者自らテーマを設定した。（もみじ会） ● 中野・・・運動教室を毎週火曜日に開催しており、保健課からも運動指導士等に来てもらい実施した。 ● 井原・・・運動教室を毎週金曜日に開催しており、運動指導士などの専門家も定期的と呼んでいる。 ● 日貫・・・運動教室を毎週火曜日に実施している。運動指導士や保健課にも来てもらい指導してもらっている。 ● 日和・・・運動教室を毎週水曜日に実施した。保健課等より講師を定期的に招いた。 グラウンドゴルフ大会などのスポーツ大会を実施し、スポーツが楽しめる環境づくりを推進した。 毎月2回、大正琴教室を実施し合間に簡単な運動を実施している。 	
---	--

事務事業名	③多様な分野の学習の場の提供		
	総合点検・評価	総合 評価	継続、 廃止等
	<ul style="list-style-type: none"> ● 「邑南づくり教育計画」や邑南の未来を創造する公民館を基に各公民館の年間計画をしっかりと立て公民館運営ができた。 ● 地域の方のデジタル化への対応・フォローや今まで関わりの少なかった世代へのアプローチなどに力を入れた。 	9.0	改善し 継続
	課題		
	学びやすい環境を整えるとともに、公民館に関わる人を増やしていく必要がある。		
	主な事業内容と実施状況		実績 評価
	○男女共同参画の推進		
	● 口羽・・・活動推進協議会には女性がメンバーとして多数参加しているため、事業計画は女性の視点をふまえた内容となっている。		9

<p>男の料理教室を開催し、普段台所に立つことの少ない男性が家事に参加できるよう支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 井原・・・男女共同参画のパネルを展示した。 ● 中野・・・島根県西部人権啓発推進センターからパネルをお借りし、暮らしの中の人権パネル展を開催して普段の生活の中に潜んでいる人権について学習した。 	
<p>○平和教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 町公連協・・・平和学習として広島平和記念資料館からパネルをお借りして各公民館巡回方式でロビーに展示した。 ● 9/14（土）被爆体験 伝承講話を聞く平和学習会の開催 講師：迫田 勲氏 原爆投下後、被爆者が広島から邑南町まで歩いてきた道を歩くことで、当時の苦しさを少しでも体験し、平和の尊さを知ることが目的に、9/28（土）「歩こう広島まで」を開催し、安全に最大限配慮しながら、可部から原爆ドームまでを歩いた。また開催にあたっては、事前学習会を9/28（土）に実施した。 ● 阿須那・口羽・・・2館の共催で「もう一つのヒロシマ」と題し講演会を実施し、人権、平和についての学習会を開催した。 ● 高原・・・地域の読み聞かせボランティアに協力してもらい、戦争に関する絵本の読み聞かせを通して平和や戦争について学んだ。 	9
<p>○人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 阿須那・・・羽須美中学校PTAと共催で、出雲市の朴 佳那さんを講師に迎え、少数派をテーマにした講演会を開催した。 ● 口羽・・・飯南町赤名公民館主事の景山良一さんを講師に迎え、共助を高め合う人権講座を開催した。 国際交流員のフィンランドのおやつづくりを通じて、地域住民との国際交流会を開催した。 ● 阿須那、口羽・・・2館の共催で「もう一つのヒロシマ」と題し講演会を実施し、人権、平和についての学習会を開催した。 ● 田所・・・瑞穂中学校と共催でウェルビーイングにおける子どもに関する人権について教育長を講師とした講演会を行い生徒と保護者、地域の方で理解を深めた。 ● 出羽・・・ベトナム・アメリカ・フィンランドの文化を学ぶワークショップを3回開催した。 島根県西部人権啓発センターに依頼し「性の多様性」をテーマに人権について講演会を計画したが、悪天候のため中止となった。 ● 高原・・・事業の中で、参加した外国人と一緒に交流することで、外国との違いや相互理解を深めた。 ● 布施・・・高原小学校の児童とフィンランド・エスポー高校生徒とでモルック交流会を行った。 ● 市木・・・人権擁護委員を招き「ボッチャ体験会」を実施した。 ● 石見地域公民館・・・石見地域公民館共催で人権学習会を1回実施。 アイヌ文様の刺繍コースター作り教室を開催した。 ● 矢上・・・公民館事業の際にDVD鑑賞による人権啓発を行った（もみじ 	9

<p>会1回)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 中野・・島根県西部人権啓発推進センターからパネルを借り、暮らしの中の人権パネル展を開催。普段の生活の中に潜んでいる人権について学習した。 ● 日和・・公民館事業や公民館利用者の貸館使用の際に、啓発用DVD鑑賞による人権啓発を行った(3回)。 ● 井原・・日常にある人権などのパネルを展示した。 	
<p>○環境教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 口羽・・児童と地域住民を対象に地域学習会「口羽のホテルについて学ぼう!」を開催し、地元講師から県天然記念物である口羽のホテルについて学んだ。 ● 田所・・どがあずしょう会と連携して、地域のお宝である二ツ山整備を行った。整備の延長でどがあずしょう会主催で秋にイベントを開催するにあたり、子ども達に参加を促した。 ● 布施・・公民館活動推進協議会の環境福祉部による花壇の整備を年2回行った。 ● 市木・・「ふるさと市木探検隊」を実施した。 ● 矢上・日和・・いこいの村しまねを会場に「森の学校」と題し楽しみながら森林教育を行った。(3回) ● 中野・井原・・石見東小学校に対して、稲作体験(事前学習、田植え、稲刈り)、田んぼの生き物調査(2回)、東明寺山登山(事前学習、登山)を(農)遊邑片田、井原福寿会、北の郷ファーム、東明寺の会といった地域団体と協力して開催した。 ● 日貫・・日貫小学校児童に対して、あゆの生態を学び、つかみ取りから食べるまでを体験した。 地域の方から昔遊びを教わることを通して、地域住民と児童のつながりをつくり、地域で子育てを行う機運を高めた。 ● 日和・・春の自然観察会を実施し、花や植物を観察しながら実施した 	9
<p>○高齢者学級の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 布施・・毎週木曜日に運動教室を行っている。 ● 瑞穂地域公民館・・田所地区社会福祉協議会の主催、医療福祉政策課、瑞穂地域公民館の共催で、雲南市のおばば座の公演、終活支援センターの活動紹介、医療福祉政策課のあんしんノートの紹介を行った。 ● 市木・・運動教室や認知症予防教室において、「みんなで脳トレ!」を実施した。 ● 出羽・・カラオケ同好会を新設し、月2回の活動で高齢者の憩いの場として楽しまれている。 ● 矢上・・主に高齢者を対象に3B体操による健康増進事業を毎月実施した。(すまいる教室) 認知症予防教室を毎月実施した。モルックや苔の寄せ植えなど参加者自らテーマを設定した。(もみじ会) ● 中野・・フラワーアレンジメント教室を開催した。 島根県社会福祉協議会と共催でくにびき学園公開講座をオンラインで開催した。 	9

<ul style="list-style-type: none"> ● 井原・「ひまわり教室」(認知症予防教室)を月1回の頻度で行った。内容は工作、調理などを行った。 ● 日貫・「手芸教室」を月1回の頻度で行った。工作を持ち帰って、自宅でもできるように工夫した。 ● 日和・毎週木曜に寄り合いどころが実施され、運動や交流が行われた。 	
<p>○成人学級の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 口羽・地域学習会「テラリウムをつくろう!」を開催し、ガラス容器を使用して、苔玉や植物を使って小さな植物の世界を作り上げた。羽須美地域公民館歴史講座を開催し、地域の歴史について学んだ。 ● 出羽・出羽ひな街道に向けての飾り付けの作成についてもち花作り教室と竹細工教室を開催し、もち花や竹細工を作成し、出羽ひな街道実施時に展示した。 ● 布施・自治会と共催で避難訓練と出前講座を利用した応急手当の研修会を開催した。 ● 市木・半夏田植囃子の体験 ● 中野・フラワーアレンジメント教室を開催した。 ● 井原・仕事や子育て等で日中、公民館活動に参加できない層に対して19時以降から開催する「大人のアフターセブン教室」を定期的に開催した。パソコン教室を定期的に実施し、パソコン操作方法を学んだ。 ● 日和・男性の料理教室を開催した。 	9
<p>○現代的課題講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 口羽・主事によるスマホ講座を年間を通じて開催し、スマホの基本的な操作方法について学んだ。 ● 田所・情報格差のという現代課題に対して、スマホの使い方サポートやスマホ教室などを行った。 ● 出羽・スマホ相談を地域内の方を対象に随時実施した。 ● 布施・スマホ相談を公民館で実施した。常時開設した。 ● 瑞穂地域公民館・田所地区社会福祉協議会の主催、医療福祉政策課、瑞穂地域公民館の共催で、雲南市のおばば座の公演、終活支援センターの活動紹介、医療福祉政策課のあんしんノートの紹介を行った。 ● 市木・町内の鍼灸院より講師を招き、「手足ツボ講座」を開催した。スマートフォン相談を随時実施した。 ● 矢上・スマホ相談を公民館で実施した。常時開設した。 ● 井原・夫婦共働きなどにより日中に公民館活動に参加できない子育て世代に向け19時以降から開催する「大人のアフターセブン教室」を定期的に開催し、子育て層の参加を促した。 ホットタイムと称し平日の日中に定期的に教室を開催した。引きこもり防止につなげたり、つながりづくり、集いの場として実施している。 ICT支援員の方を講師として学校の児童対象でICTの支援を行うような事業を行うことができた。 ● 日和・公民館にて適時スマホの使い方サポートを行った。 	9

○ふるさと教育の推進

- 阿須那・あすなカルタを活用し、地域の方からふるさとの歴史や良さを教えていただいた。
- 口羽…地域学習会、通学合宿を通じて、小学生と地域の方が触れ合う中で、地域のことを学習するとともに、地域に対する愛着を育むことができた。
- 阿須那・口羽・羽須美地域公民館歴史講座を開催し、地域の歴史について学んだ。
- 田所・出羽・瑞穂小学校と共同でふるさと学び合い講座を開催した。地元の講師を招いて、鱒淵かぶや久喜銀山遺跡の学習を行った。ふるさと探検隊で山菜採りを開催し、採った山菜を天ぷらやチヂミにして食べるなど食育の推進を図った。神紅のハウスに行き試食等を行い地域の資源を学んだ。
- 田所・二ツ山に合わせ本城の整備も行うなかで、山城に関連したイベントを開催し楽しみながら歴史や風土を学んだ。
- 出羽・地域学校としてわんぱく学校を6回開催した。瑞穂小学校と協力し、ふるさと学び合い講座で久喜銀山の学習内容をまとめたポスターを展示するため、久喜銀山振興協議会の方々と間歩を模した展示ブースを作成した。
- 高原・布施公民館と協力して小学校の授業に参加し、地域住民との交流や名勝や人材等の地域資源の利用に繋げた。
- 布施・ぜにほう学校（地域学校）と共催で地元の方を講師として「坐禅体験・工作教室」「親子料理教室」を開催した。
- 高原・布施・年間を通して学校と連携し、山野草の楽園や龍岩神社、赤馬滝、ひしね地蔵の見学、竹細工や紙すきによる卒業証書の作成などの体験活動を行った。
- 市木・市木小学校との連携事業で「ふるさと市木探検隊」を実施し、公民館の自主教室である「ふるさと学芸員養成塾」も深く関与した。また、成果発表会にも参加した。
- 石見地域公民館・市木・中学生対象の「中学生 SALON」を実施し、中学生の家と学校以外のサードプレイスになるようボードゲーム等を実施し、中学生のニーズ把握を行った。
- 矢上・小学校と地元寿朗会が行う米作り体験活動のサポートを行った。
- 中野・井原・中野公民館と一緒に石見東小学校に対して、稲作体験（事前学習、田植え、稲刈り）、田んぼの生き物調査（2回）、東明寺山登山（事前学習、登山）を（農）遊邑片田、井原福寿会、北の郷ファーム、東明寺の会といった地域団体と協力して開催した。
- 中野・小学校の要望に応じて地域の方等の紹介等を行い一緒に取り組みを行った。令和6年度は小豆の種まき、まち探検の授業の手伝いを行った。
- 井原・小学校の要望に応じて地域の方の紹介等を行い、一緒に取り組みを行った。大学生、高校生が地域活性化させるために取り組みたいことを考え雲井の里で取り組みを行ったがその支援を公民館としても

<p>行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日貫・・「そば植え、そば刈り、そば打ち体験」を実施した。地域の方や小中学生達も参加して交流を深め、いろんな世代に参加していただき交流することができた。 <p>小学6年生を対象に紙漉き体験を行った。</p>	
<p>○高校生を対象とした講座の開催</p> <p>町公連協・・矢上高校と石見養護学校の3年生を対象に、ふるさとに住む先輩方から多様な人生観を教えていただく場を提供し、自分の将来起こりうることも先輩方から聞いた話を思い出して対応できるように、また邑南町のすばらしさを知ってもらう機会を作った。</p>	9
<p>○館々交流の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 阿須那・口羽・・口羽公民館と連携し、羽須美地域公民館まつりや歴史講座、人権学習会等を実施した。 ● 高原・布施・・美郷町の比之宮公民館と連携し親子での無添加ハムづくり体験を2回開催した。 ● 瑞穂地域公民館・・田所地区社会福祉協議会の主催、医療福祉政策課、瑞穂地域公民館の共催で、雲南市のおばば座の公演、終活支援センターの活動紹介、医療福祉政策課のあんしんノートの紹介を行った。 ● 石見地域公民館・・石見地域公民館共催で人権学習会を実施した。 ● 石見地域公民館・市木・・中学生のニーズ把握や居場所づくり事業である「中学生SALON」を実施した。 ● 矢上・日和・・森の学校を実施した。 ● 日貫・日和・・小学生児童等を対象に様々な体験を行う子どもカルチャーバスを開催した。 	9
<p>○女性リーダーの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 田所・・女性セミナーを毎月1回開催し、自分達でやりたい事を決めて準備や進行を任せる取り組みにより、女性リーダーの育成を推進した。 ● 井原・・「大人のアフターセブン教室」を定期的で開催し、講師や参加者を女性にするよう意識して取り組んだ。 	9

事務事業名	④学習成果発表の場の充実		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	<p>社会教育の幅広さや楽しさを知ってもらう場として、「WE フェス」を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 参加者約 250 名で、参加いただいた皆さんに社会教育に関心を持ってもらうことができた。 ● 子どもたちの学校や公民館、地域活動を披露することを意識して開催し、子どもたちの発表や展示を行った。 ● 日頃から子ども達に関わる団体に出展していただき、子どもたちや親子で科学教室や異文化体験をしてもらった。 	9.3	継続
	課題		
	引き続き「WE フェス」を計画的・有効的に実施し、公民館と関わってくれる方や社会教育に関心を持つ人の掘り起こしにつなげ、地域全体で社会教育に取り組んでいく力を見出し、子ども達の成長やこれからの地域に関わる人材を育てていく必要がある。		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	<p>○公民館まつり・文化展の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 阿須那・口羽・・・公民館における各種サークル学習活動の成果発表の場として、「羽須美地域公民館まつり」を開催し、舞台発表と作品展示を行った。 ● 田所・・・4年ぶりとなる公民館まつりを開催し、公民館教室や地元の団体や成人グループの発表の場として、ステージ発表や展示会を行った。 ● 出羽・・・公民館における各種サークル学習活動の成果発表の場として、まんぷく祭りで展示会を開催した。 ● 布施・・・ひなまつり文化展にて、各教室の作品や住民さんの作品の展示を行った。 ● 市木・・・「ビッグひな祭り文化展」を開催し、各団体の成果発表の場とした。 ● 中野・・・公民館における各種サークル学習活動の成果発表の場、また、公民館と交流した小学校・矢上高校・石見養護学校からも展示物の出展を受けて、文化展を開催した。 ● 井原・・・自治会主催の井原彼岸市と併せて公民館活動発表展示会を行い公民館利用団体等の活動披露の場とした。 ● 日貫・・・公民館内で開催された神楽フェスティバルの支援を行った。 ● 日和・・・屋内での発表がメインである公民館まつりを3月に開催し、地区内の7団体の発表等を実施。約200人の来場者があった。 		10
	<p>○教室・サークルの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全公民館・・・公民館だより等で教室のPR、サークル紹介を行った。また、サークルで製作したものを展示するコーナーを設け、活動の周知及び参加意欲の向上を図るとともに、来館者に楽しんでもらうように工夫した。 ● 市木・・・教室で必要な資料等を作成し活動のバックアップを行った。 		9

<p>○公民館活動発表の場（WE フェス）を設ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「WE フェス」にて公民館活動の展示を行うとともに、子どもたちが地域や学校、公民館活動を通しての活動発表をする場を設けた。 ● 子どもたちに関わる団体の協力を得て様々な学びを体験する場となった。 ● 井原・地域、学校、井原公民館が協力して行った取り組みをいくつか WE フェスの展示コーナーにて紹介した。 	9
--	---

事務事業名 ⑤相談窓口			
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<ul style="list-style-type: none"> ● 邑南町公民館連絡協議会の活動は多くの公民館が関わるので単館で行う事業にもつながり、幅広い取り組みとなった。 ● 地域内の方のデジタル化への対応に向けた事業も実施できた。 		9.0	改善し継続
課題			
<ul style="list-style-type: none"> ● 相談内容が多岐に分かれているので様々な知識や情報の習得が必要とされる。 ● デジタル化や各種申請手続きへの相談窓口としての機能も充実させていく必要がある。 			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○相談窓口の充実			9
<ul style="list-style-type: none"> ● 全公民館・町民の学習に関する相談に対して教育委員会・公民館で指導・助言を行い、学習意欲の高揚と人材育成を図り、また、その他の相談についても他機関への取り継ぎを行った。 			
○広域での連携強化			9
<ul style="list-style-type: none"> ● 町公連事業・・・8回 ● 郡公連事業・・・1回 川本町にて三原まちづくりセンターの運営方法の研修を行った。 			

施策4 図書館教育の充実

～魅力ある地域を支える人材の育成～

事務事業名	①図書館の整備・充実		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
<ul style="list-style-type: none"> ● 「第4次邑南町子ども読書活動推進計画」を改訂し、今後5年間で乳幼児期から本に親しむ環境づくり、多様な子どもたちへの読書機会の保障を重点的に取り組むことについて各機関と情報共有できた。 ● 学校司書研修へ参加することで、連携が増し問題の共有ができた。 ● 図書の新規購入は利用者からのリクエストや現代のニーズに合わせ蔵書構成を考えながら行っている。 ● 相互貸借、特別貸出を活用し利用者の要望に応えることができた。 ● Web予約の件数は増えている。 ● 郷土資料などの登録作業は今後も継続して行っていく。 			
	9.8	改善し継続	
<p style="text-align: center;">課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもたちを取り巻く環境の変化に対応し、親子読書普及を今後も力を入れていく必要がある。 ● 書籍等の情報資料の活用が減少しており、タブレット等の情報端末のベストミックスを目指すため、資料収集に努めなければならない ● 郷土資料の収集、登録、保存継続的に行わなければならない。 ● 資料の廃棄等をすすめ、魅力ある棚構成を目指す必要がある。 ● 個人貸出 35,687冊(目標値37,000冊)で目標値に達していない。 ● 団体貸出 5540冊(目標値10,000冊)で昨年度よりは増加しているが、3館とも児童の来館が減少している。 			
	実績評価		
<p style="text-align: center;">主な事業内容と実施状況</p> <p>○新規図書の購入 新規購入 児童書416冊、一般書591冊</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 蔵書構成、利用者のニーズを考慮し資料の充実に努めた。 ● 寄附により児童書が充実、児童の読書普及に役立てた。 ● 多様な子どもたちへの支援としてバリアフリー資料等を調べ備えた。 		10	
<p>○県立図書館特別貸出の活用 石見・羽須美地域の公民館に県立図書館の図書を設置し住民の読書に供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 借受冊数2900冊 ● 相互貸借(他の図書館より資料の借受)485件 		10	
<p>○読書普及活動の推進 感性やコミュニケーション能力を育み、子どもの生活を豊かにすることを目的とし、保育所・園、小学校、からの要望に対し、読書ボランティアとの調整を行った。</p>		9	

<ul style="list-style-type: none"> ● 公民館の協力により図書館を利用ができない方に本を届けることができた。 ● ブックスタート 0歳児 52人、1歳6カ月児 32人、3歳児 56人へ絵本を手渡し、親子読書の大切さを伝えた。 ● 子どもたちへ読書の関心を高めるため夜のおはなし会（1回）を実施した。 ● 読書ボランティアの協力により大人のためのお話会（1回）、本館でぬいぐるみのお泊まり会を復活、石見分館でおはなし会を実施した。 ● 毎月の展示に工夫をこらし、大人への読書啓発を行った。 ● 貸出冊数の制限をなくした取り組みは好評であり、今後も継続していく。 ● 一堂に会しての職員研修はできなかったが、各自自主的に研修会に参加した。 	
<p>○はたちを祝う会読書普及活動 推薦図書を高校学校司書と選定、及び読みたい本を取りまとめ贈呈した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対象者数 86名。 	10

施策5 社会体育の充実

～生涯にわたるスポーツの実践と、夢、感動を与えることのできる人づくり～

事務事業名		①生涯スポーツ活動			
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等		
<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な社会体育事業に、邑南町スポーツ協会や邑南町スポーツ推進委員協議会が中心になって取り組んだ。 ● スポーツ推進委員は、住民へのスポーツ推進に関する事業の運営にも積極的に参加され、会の自立に努力されている。 ● いずれの団体も誰もが楽しめるスポーツ振興のために事業実施をしている。 				9.3	改善し 継続
課題					
誰もが楽しめるスポーツの振興を社会体育推進団体と協働して進めるため、地域に密着したリーダーを育成する必要がある。					
主な事業内容と実施状況			実績 評価		
○町民の健康づくり <ul style="list-style-type: none"> ● 邑南町スポーツ協会主催の各種スポーツイベントが開催された。 ● 町内地区スポーツ協会が中心となって実施される地区民運動会も開催されており、町民の運動の場も増えている。 			10		
○スポーツをとおした共生社会の実現 <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度整備したインドアモルックが好評で貸出実績もよかった。 ● ボッチャも同様に町内各種団体の利用が増え、誰でもできる活動として町内に広がっている。 ● 出前講座やWe フェスでのユニバーサルスポーツブース等を通じレクリエーションや軽スポーツ、ボッチャ、インドアモルックを紹介し実践できた。 			10		
○第84回国民スポーツ大会に向けた住民の機運の醸成 <ul style="list-style-type: none"> ● 県が企画するトップアスリート事業の採択を受け、町内小学校において、オリンピックによる実技講演会を実施できた。 ● 中央競技団体の正規視察を受入れ、国スポ開催に向けた準備を行った。 			10		
○部活動の段階的な地域移行に向けた支援 <ul style="list-style-type: none"> ● 部活動指導員・地域指導者に対して書面による研修のみ実施した。 ● 地域スポーツクラブの立ち上げを検討している団体が活動している場に参加し、課題や必要な支援について情報提供を行った。 			7		

施策6 学び合いによる豊かな地域づくり

～個性と活力に満ちた地域協働体制の形成～

事務事業名	①出前講座		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	各課をはじめ、公立邑智病院、警察署、消防署、町社会福祉協議会などの各団体で講座メニューの見直しを行い、全94個のメニューにより受講申込団体の希望に沿った講座が開設できた。	10	継続
	課題		
	講座の充実を図るため、絶えず各課、各団体でメニューの変更、追加を行い、引き続き申し込み団体の希望に沿えるよう団体と講師との調整を図っていく必要がある。		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	○出前講座の充実 町民憲章の達成に向け、町職員、各団体職員などが地域に出向いて講座を実施し、125講座2,773人の参加を得た。		10

事務事業名	②住民自治による地域づくりの推進		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	地区別戦略や自治会と連携し、地域課題の解決に向けた協議・検討を行った。	9.0	改善し継続
	課題		
	各公民館が、それぞれ地域の実情に合わせて、地域の担い手となる団体、組織との情報共有及び連携をはかることで、さらなる住民自治による地域づくりの推進を支援する必要がある。		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	○地域運営組織、地区別戦略発展事業との連携		9
	● 阿須那・・・あすな地区応援隊と毎月会議を行い、情報共有や共催事業を行うとともに活動の支援を行った。 応援隊と協力して、地域資源である軍原キャンプ場で川遊びや魚釣り、水風船合戦などを開催した。		
	● 口羽・・・毎月、口羽公民館活動推進協議会を開催して意見を交わしている。また、通学合宿の開催に向けた協議を繰り返す中で、地域として子どもたちに何ができるか一緒に考えることができた。		
	● 田所・・・地区別戦略と連携して、地域のお宝である二ツ山整備を継続して取り組んだ。 秋には地区別戦略どがあずしょう会の主催で雲海と朝日を見るイベントやウォーキング大会、元旦には初日の出を見るイベントを開催した。		
	● 高原・・・地区別戦略発展事業団体「高原を楽しくする会」と共催事業を行い、公民館活動を通じて接点の少ない親子世代と繋がることができた。		
	● 布施・・・銭宝地区別戦略実行委員会と毎月会議を行い情報共有を図っ		

<p>た。また自治会と共催で避難訓練・研修会を開催した。</p> <p>自治会と銭宝地区別戦略実行委員会の連携会議を行い、今後の活動や地域運営組織について話し合いを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 矢上・・・「矢上地区戦略事業協議会」の事業サポートを行った。 ● 中野・・・加茂の春市にて中野地区別戦略と協働しフリーマーケットを開催した。 ● 井原・・・地域を盛り上げる団体である井原 MIRAI クラブへの支援を行った。会議、イベントでの準備や当日運営など数多く支援を行った。 ● 日和・・・地域や地区別戦略の動きを公民館だよりや公民館ロビー展示により情報提供、周知を図った。 	
--	--

事務事業名	③健康センターの活用		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	施設利用者は42,791人と昨年(39,984人)より増加した。安心して施設を利用していただけるよう必要な修繕を行った。	9.0	改善し継続
	課題 施設の利用形態を検討しながら利用しやすい環境を整備する必要がある。		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	○健康センターの活用 大規模な催しや会議を開催した。		9

施策7 学校と地域が連携（一体化）した取り組み

事務事業名	①食育の推進		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
「食育」の取り組みとして、地産地消コーディネーター1名を配置し、安全安心な地元食材を学校給食で提供した。		8.4	改善し 継続
課題			
<ul style="list-style-type: none"> ● 地産地消の推進活動では、材料費が高騰する状況の中、地産地消と安全安心な学校給食の提供と「食育」の推進を継続する必要がある。 ● 食のボランティア登録者に意向調査を実施したところ、辞退の意向が多数あり新規登録者もない状況である。 ● 民間主体の「子ども食堂」等の独自の活動が出てきており、食のボランティア自体の継続を検討していく必要がある。 ● 昨年度所管替えのあった「食の学校」の活用について、食育の観点から検討する必要がある。 			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
<p>○学校給食センター</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2か所の学校給食センターの運営補助と継続した支援を行った。 ● 安全安心な給食の提供に引き続き努め、献立や給食だよりの発行などを通じて情報を発信し、継続した食育の推進を図った。 		9	
<p>○地産地消の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 給食センター所長が兼務で地産地消コーディネーターを行っており、地元食材の調達を行っている。 ● 学校栄養教諭、学校栄養士、調理員も協力的かつ、積極的に地元食材の活用に務めており、地産地消向上につながっている。 ● 地産地消の推進として、食材費の一部（地元野菜）及び石見和牛肉購入費の一部も継続して町負担とした。 		10	
<p>○一校一菜プロジェクト</p> <p>生産から消費までの一貫した過程を体験することを目的とし、各学校で農産物を育て、それを学校給食や地域の人と食する事業を11校で実施することができた。</p>		10	
<p>○食のボランティアの育成</p> <p>ボランティア登録者の辞退が多数あり新規登録者もないため、継続者に対して公民館等で行う調理教室等の情報提供を行った。</p>		6	
<p>○食の学校と公民館の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日和地区の代表や栄養士等に参加してもらい、「食の学校」の活用について意見交換会を3回実施し今後の活用方法について検討した。 ● 意見交換会での意見として、活用しながら検討して欲しいという声があったので、親子対象にしたイベントを3回実施した。 ● イベント実施により導き出した見解（食育活動は各公民館で実施することを支援する）を意見交換会参加者に報告した。 ● 今後の動きとしては、施設利用を主に地域の方等のニーズを聞きながら貸し館等を含めて引き続き検討していくこととなった。 		7	

<ul style="list-style-type: none"> ● 布施・・ぜにほう学校（地域学校）と共催で地元の方を講師として「親子料理教室」を開催した。 ● 高原・布施・・美郷町の比之宮公民館と連携し親子での無添加ハムづくり体験を2回開催した。 	
---	--

事務事業名 ②読書の普及			
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<ul style="list-style-type: none"> ● 調べ学習に適した資料の収集と相互貸借により、学校図書館へのバックアップが充実してきている。 ● 図書館での各種行事や学校での読書普及活動において、多くの読書ボランティアの協力を得ることができた。 ● 研修会を1回実施。 		9.0	改善し継続
課題			
<ul style="list-style-type: none"> ● 現在ある資料の見直しを行うとともに、今後も学校図書館をバックアップしていくための資料収集に努める必要がある。 ● 読書ボランティアの更なる資質向上と新たな読書ボランティアの育成に努め、ネットワークを広げていく必要がある。 			
主な事業内容と実施状況			実績評価
○読書の普及			
<ul style="list-style-type: none"> ● 読書ボランティアの協力により、朝の読み語り（全校）、ストーリーテリング（全校）、ブックトーク（1校）などの読書活動が継続できた。 ● 学校での調べ学習などのレファレンスに対応し資料の収集を行った。 			9
○読書ボランティアの研修			
<ul style="list-style-type: none"> ● 町内の約120名の読書ボランティアの方に小・中学校で朝の読み語りなどに関わってもらった他、継続して図書館での行事などに参加、協力してもらった。 ● 要望のあった団体に研修会（1回）を開催することができた。 			9

3. 地域文化の創造

施策1 ふるさとの歴史・文化に関する学習の推進

～郷土の文化や文化財を大切に、愛郷心を育てる事業の推進や活動の充実～

事務事業名	①関係施設の整備・充実と有効活用		
<p style="text-align: center;">総合点検・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ふるさと教育推進の拠点としての、文化財関係各施設の機能は維持できており、町内小学校の授業の一環として施設利用があるなど、一定の役割を果たした。 ● 各施設の情報提供について、施設の活動状況に関する情報提供ができた。 ● しまねミュージアム協議会を通じた類似館との連携を図ることで、より一層「伝える」「活用する」「体験する」取組を図っていく。 	総合 評価	継続、 廃止等	
<p style="text-align: center;">課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 郷土館、ハンザケ自然館について、町内の小中学校すべてに授業などで利用していただけるよう展示物や企画展、イベントなど両館が持つ情報を提供していく必要がある。 ● 地域素材を用いた学習プログラムの開発をすることで、授業等での利用を促進し、より一層町内の児童・生徒に対する愛郷心の醸成を図って区必要がある。 ● ハンザケ自然館は、学習施設としての役割を今一度確認し、事業を実施して区必要がある。 ● 文化財施設などの老朽化が顕在し始め、今後修繕などを計画的に実施していく必要がある。 			9.5
主な事業内容と実施状況		実績 評価	
<p>○郷土館の整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 郷土館の収蔵品の整理は随時行った。 ● 展示品の入れ替えを行うなど展示の充実を図った。 ● 来館された方への対応を随時行った。(来館者数 633 人) ● 郷土館周辺的环境整備として除草作業を6回実施した。 ● 郷土館活動推進協議会を1回開催した。 ● 企画展を1回開催した。 ● 夏季企画展「令和の寄贈品展」を開催。251人の集客があった。 		9	
<p>○自然館の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自然観察・自然体験事業を2回開催した。 ● 自然環境に関する講師として講座を1回行った。 ● 特別天然記念物オオサンショウウオの交雑種問題に対応するため生息調査を県境付近の河川を中心に行った。 ● 希少動植物及び湿地などの保護や調査を12か所行った。 ● オオサンショウウオの屋内での産卵は、繁殖行動の兆候は確認したが産卵には至らなかったが関連する調査研究に取り組んだ。 		10	

事務事業名	②ふるさとの歴史・文化に関する調査・学習支援		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	史跡久喜銀山遺跡に関する講座や小中学校での出前講座などを実施し、町民が直接文化財に触れる機会を提供できた。	9.0	改善し継続
	課題		
	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本遺産となった石見神楽や他の伝統芸能について、保存継承が図られるよう引き続き取組みを行い必要がある。 ● 町内に所在する文化財について、今後包括的な保存の仕方や活用のあり方について議論をしていく必要がある。 		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	○文化財の保護・保存・調査・研究 <ul style="list-style-type: none"> ● 文化財保護審議会を2回行った。 ● 史跡久喜銀山遺跡保存活用委員の意見交換会を1回開催した。 ● 保存活用計画の認定に向け、地元集落及び関係団体等との協議を5回実施した。 ● 各種開発協議に伴う埋蔵文化財協議を20件行った。 		8
	○文化財の活用 <ul style="list-style-type: none"> ● 出前講座の講座名「ふるさとを学ぼう」などで6回対応（受講者累計115人） ● 公民館及び町内団体主催の行事イベントにて史跡ガイドの支援等を行った。 		10
	○伝統芸能の保存伝承の推進 <ul style="list-style-type: none"> ● 島根県文化財課が実施する民俗芸能調査に調査員を推薦し、町内の特徴的な伝統芸能を適切に保存伝承するための調査協力を行なった。 ● 神楽のユネスコ無形文化遺産登録に向けた準備等の情報提供を行なうことで、保存団体間の連携について意識高揚を図ることができた。 ● 島根県西部の石見神楽定期公演に関する情報収集を行なった。 		9

事務事業名	③芸術・文化に関する学習支援		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	<ul style="list-style-type: none"> ● ハンザケ自然館で、邑南の自然・景観写真展を複数回開催した。 ● SNSを運用開始し様々な取り組みを全国に情報発信をした。 	10	改善し継続
	課題		
	写真展等のイベントについて、邑南町の自然の大切さを啓発する観点を勘案しつつ、SNSなどを用いた情報発信などより多くの人に邑南町の豊かな自然に着目してもらえよう、適当な方法を検討していく必要がある。		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	○芸術・文化活動の支援 <ul style="list-style-type: none"> ● 自然館で「邑南の自然・景観写真展」を1回、「邑南の野鳥展」を2回開催した。 		10

<ul style="list-style-type: none"> ● 「邑南の自然・景観写真展」の応募人数は14人と例年どおりだったが、新規応募者により展示の様相が新たになった。 「邑南の野鳥展」は、野鳥ファンや写真愛好家の来館が増えた。 ● 自然館でInstagram、X（旧 Twitter）の運用を開始した。 日々のオオサンショウウオの食事風景や身体測定の模様などを発信した。 ● Instagramは1022人、Xは1208人のフォロワーがいる。 	
--	--

4. 人権教育・啓発の推進

施策1 人権教育

～不合理な差別を許さない人権教育と啓発の深化～

事務事業名	①人権・同和教育	
	総合 評価	継続、 廃止等
<p style="text-align: center;">総合点検・評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 同和問題をはじめとするあらゆる人権課題をテーマにした研修などを各公民館や企業団体などで行った。 ● 毎年継続して取り組んでいる各種団体・事業所を対象にした啓発推進講座も開催した。参加者から「習ったことを事業所内研修で啓発推進していく」との感想が得られた。 	9.8	継続
<p style="text-align: center;">課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 同和問題をはじめとするあらゆる差別の解消が、自らの生き方と関わっていると自覚できる研修内容を創造し、研修の活性化を図る必要がある。 ● 「であい・ふれあい・学び合い」を大切にしたい取組は、「共に生きる温かい人間関係づくり」につながっていく必要がある。 ● 人権学習の推進が、「誰もが個人として等しく尊重され、共生していく差別のない社会」につながり、「まなび」と「行動」が循環する循環型の人権学習に結びつけていかなければならない。 ● 職員研修はできるだけ全職員が参加するよう関係課と連携を強めて参加してもらうよう働きかける必要がある。 ● 令和2年度に行った「邑南町人権問題に関する町民意識調査」の集計結果について、女性が男性に比べ差別を受けていると感じている割合が高いなどの課題が出ている。この課題解決のために、人権に対する正しい知識を身につけ、差別を見抜き差別をなくす「多様性教育」を推進していく必要がある。 ● 「インターネットによる人権課題」を心配する意見が研修会ごとでのアンケート調査でも増えてきており、インターネット上の差別的書き込みや誹謗中傷等の事案は依然として多く存在している。 		
<p>主な事業内容と実施状況</p>	<p>実績 評価</p>	<p>10</p>
<p>○職員の研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 職員研修を7月、10月、11月に実施。(計235人参加) ● 島根県職員の制度を参考とした人権啓発研修推進員制度を平成30年度から取り入れ、その制度に則った人権啓発研修を全課で実施し、職員の人権意識の啓発につなげた ● 県の主催する社会人権・同和教育啓発基礎講座に新規採用から2年目までの職員を対象として基礎講座へ参加した。(計3回延べ24名) 		
<p>○地域への啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各公民館での「人権に関する研修」を必須としており18講座実施した。 ● 公民館利用団体による人権啓発DVDのビデオフォーラムは、視聴後の 	<p>10</p>	

<p>感想も多く人権意識を向上することができた。</p>	
<p>○ 邑南町人権・同和教育推進協議会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 総会及び研修会は、計画段階から連携しながら準備し、研修会に至っては年3回開催できた。 ● 島根県人権教育研究協議会を通じて研修会の開催を周知したところ、他市町村からの参加もあり、広域的に学び合うことができた。 ● 島根県人権啓発推進センターの主催する研修会や各種研修会を関係課へも周知し、広く案内を行い、積極的に参加した。特に、地域に密着した公民館から公民館職員の参加が多かった。習ったことを地域への展開を促進していきたい。 ● 邑南町人権・同和教育啓発推進講座については、町内事業所・社会福祉法人職員・町職員の参加があり、講座を通じて異業種のつながりも構築できた。 <p>(1211 団体+役場(推進員含む)+公民館 2124 人)</p>	9
<p>○ 学社連携による人権・同和教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人権・同和教育は、中学校区ごとに学期ごとに計3開催した。 ● 県立学校、スクールソーシャルワーカー、特別支援教育コーディネーター、浜田地区学校・福祉連携推進教員、浜田教育事務所の参加も得ながら助言や情報提供をいただき、人権・同和教育の推進状況や支援の必要な児童生徒についての取組内容や支援制度を検証するなど情報交換することができた。 	10
<p>○ 人権に関する住民意識調査の活用</p> <p>これまでの啓発の中で積み上げられた成果等を踏まえ、研修手法や啓発手法などに工夫を凝らしつつ学校、地域、職場などでのさまざまな機会をとらえた教育及び啓発に取り組んだ。</p>	10